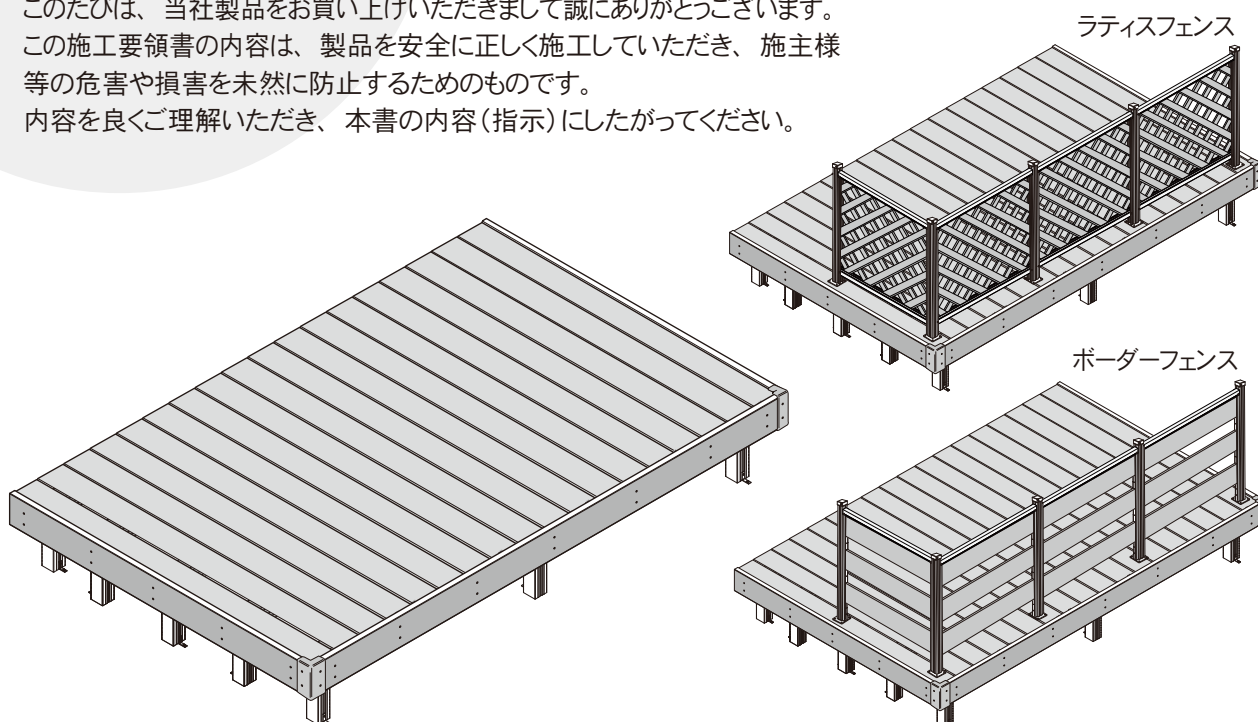


人工木デッキ

JJ-WOOD II 施工要領書 EC

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
この施工要領書の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
内容を良くご理解いただき、本書の内容(指示)にしたがってください。



イラストはイメージです。

JJ-WOOD II人工木デッキの基本的注意事項	2	3 幕板の施工	
施工を始める前	3	【1】幕板の加工	17
デッキ部材表	4	・幕板切断調整	17
構造図と納り図	6	・幕板マーキング	17
基本寸法表	7	・幕板の下穴加工	19
施工時の重要確認事項	8	【2】幕板の取付け	20
		【3】幕板コーナーキャップの取付け	20
施工開始			
デッキの施工		フェンスの施工	
1 束柱・大引の施工		フェンス部材表	20
【1】基礎の施工	10	組立図	20
【2】束柱の加工	10	寸法図	21
【3】大引に幕板固定金具を取付けます	11	1 柱の施工	
・大引を連結する場合	12	【1】レールの取付け	23
【4】束柱の取付け	13	【2】柱の位置決め	23
【5】束柱の固定	13	【3】柱の取付け	24
2 床板の施工		2 フェンスの切り詰め	25
床板を縦連結する場合	15	3 フェンスの組立	26
【1】床板の取付け	16	人工木材の特性と使用上のご注意	27
【2】最終床板の取付け	17	お手入れ方法とメンテナンス	28



JJ-WOODII 人工木デッキの基本的注意事項

【用途】

ウッドデッキ用

*その他、外装材やフローリング等の用途にご使用にならないでください。

【使用方法】

本商品は履物をはいて使用するウッドデッキ用です。

裸足での使用や寝転がる等の使用は、なさないでください。

【採用に当たってのご注意】

1. 表面のサンディング仕上げによるケバ立ちがあります。
ケバ立ちはご使用過程で徐々に取れていきます。衣類などに付着することがございます。
2. 直射日光により表面温度が高温になります（真夏で60℃以上）
温度変化による材料伸縮により、繋ぎ部の目地が変化します（目安 長さ2000mmで約6mm）。
例）真夏施工で目地6mm確保すると、冬場目地は12mm程に開きます。
逆に真冬目地6mmで施工すると、夏場に目地がなくなります。
3. 床板縦連結の場合、一本当たりの使用長さは2000mm以内。
床板2000mm以上では縦連結をしないでください。
4. 材料特性上、静電気の発生が起こります。（時間経過とともに発生しづらくなっていきます）
5. 常に湿っているような場所でのご使用は、反りや変形・干割れが起こりやすくなります。
*ベランダ・屋上・プールサイド等
6. 経年変化によるチョーキングにより、粉状の汚れが発生し、触ると付着いたします。

上記に関し、十分ご理解の上、決定及びご使用お願い申し上げます。

特に、保育園・幼稚園・幼児施設・ベランダ等への採用検討時は十分にご検討お願いいたします。

【施工上のご注意】

1. 繋ぎ部の目地は、時期・温度等を考慮し、適切な目地寸法を確保してください。
2. 通気性・排水性をいつも確保できる様、施工してください。
3. 土面や床に直接触れたり、埋込するのはおやめください。
4. 繋ぎ部の目地は、材料伸縮を考慮し、適切に確保してください。
5. 床板を床板固定具で固定する際、動き止めのため、床板一本あたり一か所の床板固定具（センター近辺）を床板にねじ止めしてください。
6. 表面をサンディング加工しているため、目の方向があります。目をそろえて施工してください。
光の当たり方で色が違って見えます。
7. 床板を繋ぐ場合、各列毎に目地をずらしてください。
8. 床板固定具を止める際、ねじ頭が小さいため、締めすぎないように十分ご注意ください。
*鋼製根太ご使用の場合は下穴φ3.0を空けていただく事を推奨します。

◆施工を始める前に◆

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 本製品は一般住宅の一階相当分施工用です。それ以外の場所への取付けはしないでください。

- ①正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず施工要領書をお読みください。
- ②製品の施工については、必ず施工要領書にしたがってください。
- ③施工プランと必要部材が揃っているか確認してください。
- ④部材変形防止のため、製品保管状況を確認してください。
 - ・当製品は、木粉入り高密度樹脂製のため、熱変形することがあります。取扱いには十分注意してください。
 - ・平らな場所に平置きしてください。栈木の上に乗せると、反りが発生する場合があります。
 - ・立てかけての保管はしないでください。
 - ・暖房機や焚き火近くの高温になる場所には保管しないでください。
 - ・製品の上に重量物を長時間重ね置きしないでください。
- ⑤設置場所を確認してください。
 - ・給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。熱排気による部材の変形・劣化のおそれがあります。
- ⑥人工木は表面にサンディング加工処理を施してありますので、部材の施工方向によっては色調に濃淡がでます。
- ⑦市販の研磨紙を利用する際は、#24～40のサンドペーパーを用いてください。
- ⑧施工業者様は施工後、施工要領書を施主様にお渡しください。
- ⑨施工要領書は大切に保管し、必要な時にお読みください。

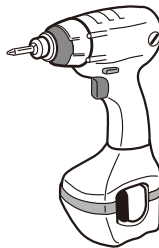



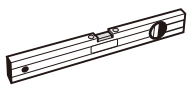
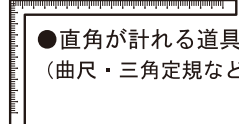



■基礎について（別途ご準備ください。）

デッキを設置する場所がコンクリート等では無い場合は、基礎石を設置し水平レベル出しをしてください。（P10 参照）



基礎石設置の作業が不十分だったり、水平レベル出しをせず取付けをしますと基礎石の浮きが発生する可能性があり、製品変形の恐れがあります。

〈組立・施工に必要な道具〉 ※道具などは付属されておられません。別途ご準備が必要となります。

<p>●電動ドライバー インパクトドライバーをお勧めします。</p>  <p>ねじ止用 #2 目地幅5mmに対応する細ビットをご用意ください。</p> <p>下穴を開ける時はドリル刃</p>  <p>鉄工用 { φ3.2mm φ5.0mm φ6.0mm(フェンス取付時)</p> <p>コンクリート用 φ4.3mm(L字アングルをご利用時、付属のアンカーねじを使用する場合) (P13 参照)</p> <p>幕板の皿取り加工 面取カッター (P18 参照)</p>  <p>六角ソケット 8mm (フェンス取付時)</p>  <p>床板を縦連結する時 (P15 参照)</p> <p>●(市販の)φ4.0×16 サラタッピングねじ</p>	<p>●水準器(水平器)</p>  <p>デッキの水平レベル出しをする時使います。</p> <p>●直角が計れる道具 (曲尺・三角定規など)</p>  <p>●水糸</p>  <p>※水糸をはる時に必要な適宜な資材もご準備ください。</p> <p>●メジャー</p>  <p>●軍手・皮手袋等</p>  <p>電動ドライバーをご使用の際は、巻き込まれる危険がありますので軍手などを使わず素手でお使いください。</p> <p>デッキ材のカット作業をする時</p> <p>●手ノコ または 木工用電気丸ノコ</p> <p>アルミ材のカット作業をする時 ・大引のカットをする時 ・束のカットをする時など</p> <p>【フェンス取付けの場合】 ・フェンスの切り詰め作業をする時 (P25 参照)</p> <p>●上記の場合、金属切断用ノコが必要です。 金属加工刃の電気丸ノコがあると作業が楽です。 (※木工用の丸ノコの刃では加工できません。)</p>
---	---

◆施工前に必ず、部材数量をお確かめください。

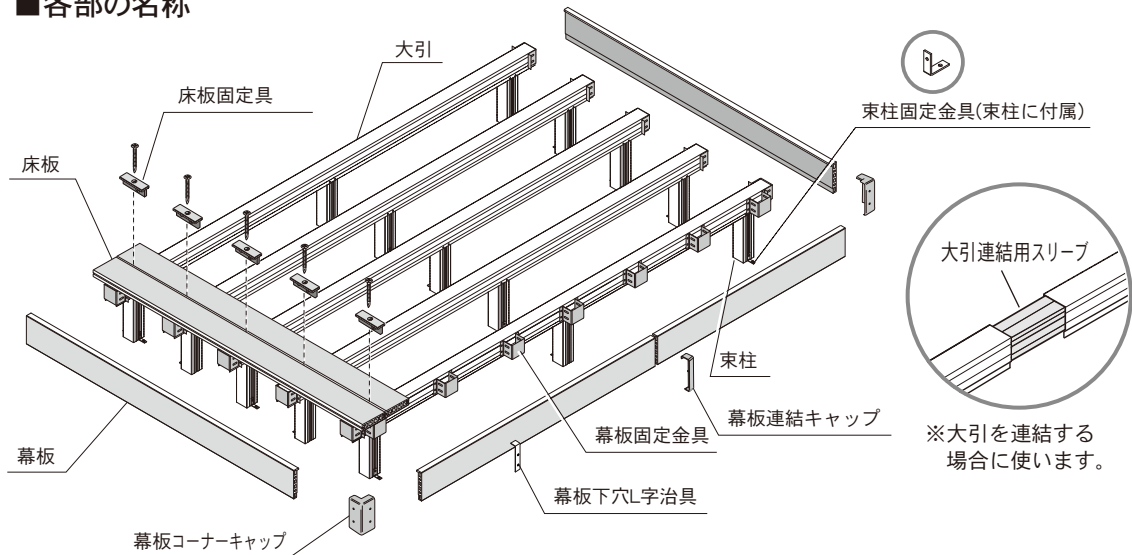
※ご面倒でも組立を始める前に部材の数量をご確認ください。

万一、不足している部材などがございましたら、施工前にご購入店にご連絡ください。

※部材に破損などがございましたら、施工前にご購入店にご連絡ください。

※施工開始後のご連絡ですと、ご対応に時間を要する為、施工が中途になってしまう場合があります。

■各部の名称



デッキ部材表

※フェンス部材は P21 参照

※市販品のねじをご利用の場合：φ4.2 の代用としてφ4.0 をご使用ください。

【1】固定束柱 280

呼称	略図	員数
束柱		1
束柱固定金具		1
φ5×35 セルフタップアンカー		1
φ4.2×13 ナベドリルねじ		5

【2】調整束柱 2848

呼称	略図	員数
束柱		1
束柱固定金具		1
φ5×35 セルフタップアンカー		1
φ4.2×13 ナベドリルねじ		9

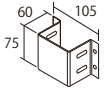
【3】大引

呼称	略図	員数
大引		1795
		2695
		3595

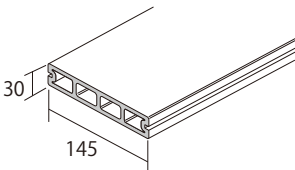
【4】大引連結用スリーブ

呼称	略図	員数
大引連結用スリーブ		1
φ4.2×13 ナベドリルねじ		8

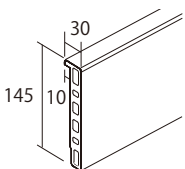
【5】幕板固定金具

呼 称	略 図	員 数
幕板固定金具		1
φ4.2×32 サラドリルねじ		2
φ4.2×13ナベドリルねじ		4

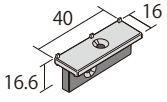
【6】床板

呼 称	略 図	
床板		
		900
		1800
	2700	

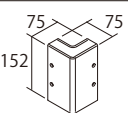
【7】幕板

呼 称	略 図	
幕板		
		890
		1790
	2690	

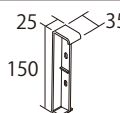
【8】床板固定具 1004 (10 入)

呼 称	略 図	員 数
床板固定具		10
ねじ		10

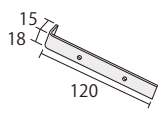
【9】幕板コーナーキャップ

呼 称	略 図	員 数
幕板 コーナーキャップ		1
φ4.2×13 サラタッピングねじ		4


【10】幕板連結キャップ

呼 称	略 図	員 数
幕板連結キャップ		1
φ3.5×13 ナベタッピングねじ		2

【11】幕板下穴 L 字治具

呼 称	略 図
幕板下穴 L 字治具	

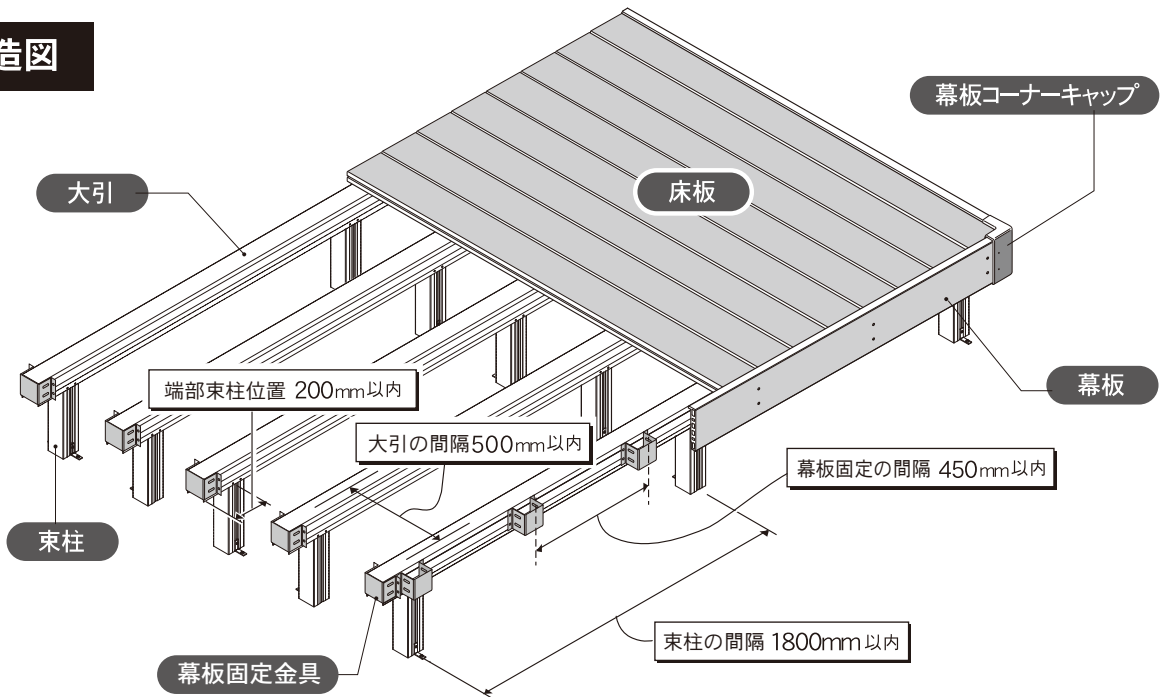
【12】幕板固定用ビス (10 入)

呼 称	略 図	員 数
幕板固定用ビス		10
φ 4.2 × 32mm		

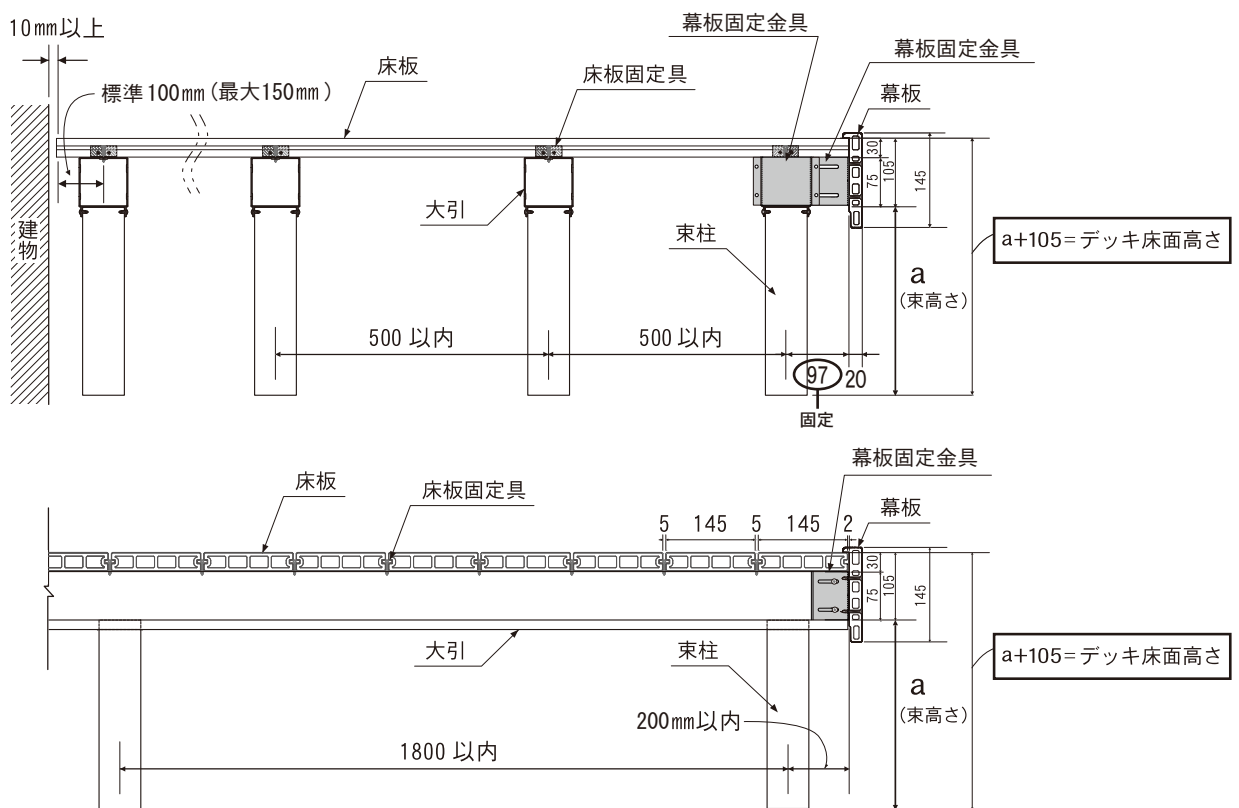
構造図と納り図

※フリー設計の場合は構造図と基本納まり図面、基本寸法表(P7)を参考に位置出しをしてください。
 ※別売りのフェンスを取付ける場合は、必ずフェンス柱の下に大引を配置します。
 「フェンスの施工(P21)」をご確認ください。

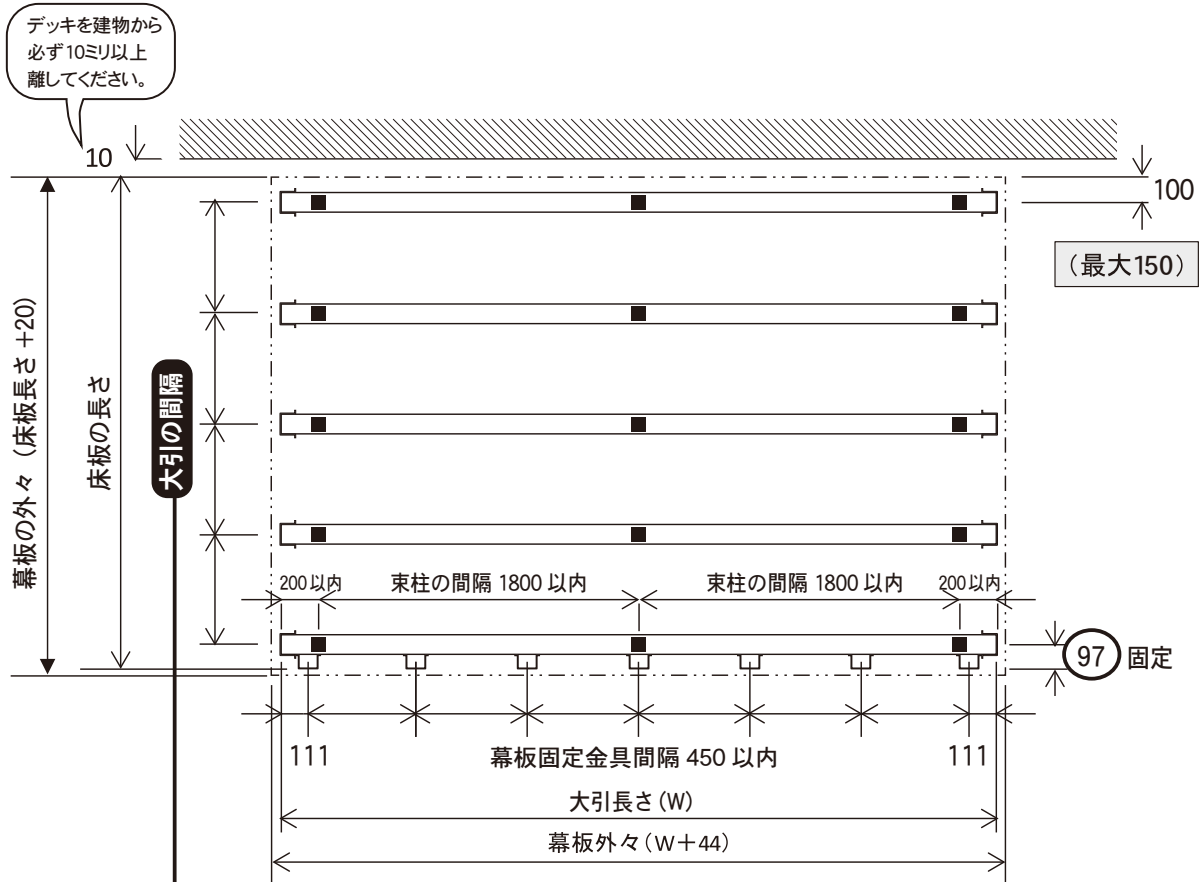
構造図



基本納まり図面



基本寸法表

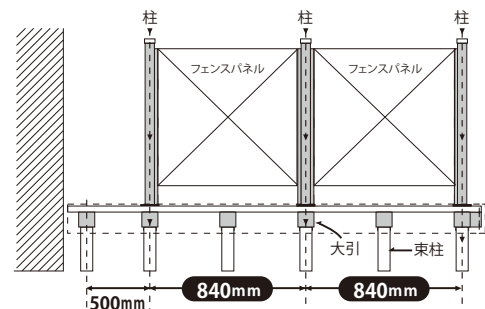


オープンデッキの場合

- ・大引間隔500mm以内になるように大引位置を決めます。
- ※大引を連結する場合は連結位置に必ず東が必要です。(P12参照)

フェンス付デッキの場合

- ・フェンス柱は大引に取付けます。
- ・フェンス柱間隔は840mmです。
- ・必ず大引間隔を840mmにします。
- ・大引位置がずれるとフェンスの取付けができません。
- ・フェンスを切り詰める場合はフェンス柱の位置に大引が来るように配置します。
- ・柱を取付ける必要のない大引の間隔は **500mm以下** とします。



注意

- ※床板を縦連結する場合は大引の上でつなぎます。(P15参照)
- ※幕板を連結する場合は幕板固定金具の上でつなぎます。(P17参照)

施工時の重要確認事項

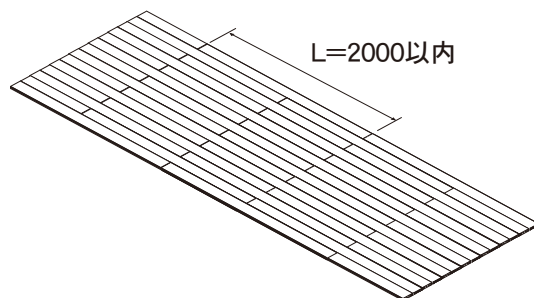


床板の間口調整は、床板枚数単位で行ってください。



床板を連結する場合は千鳥貼りとし、必ず目地をとってください。

L=2000 以内の床板を使用し、必ず目地をとってください。
それより長い床板を連結すると、反り・変形の原因になります。



デッキを建物から
必ず10ミリ以上
離してください。

目地寸法 **P15 参照**



大引端部のラインを
必ず揃えてください。

P13 参照

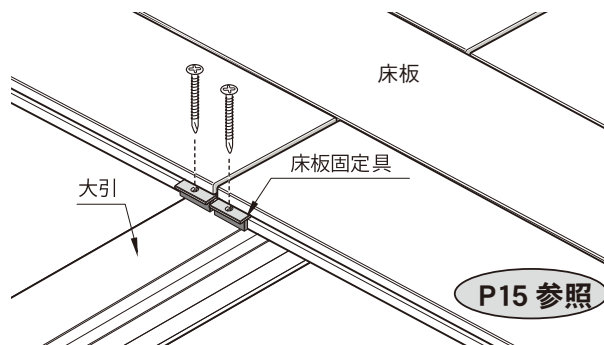
大引

揃える

ズれると
床板取付けに
支障をきたします。



床板は必ず大引の上でつないで
ください。



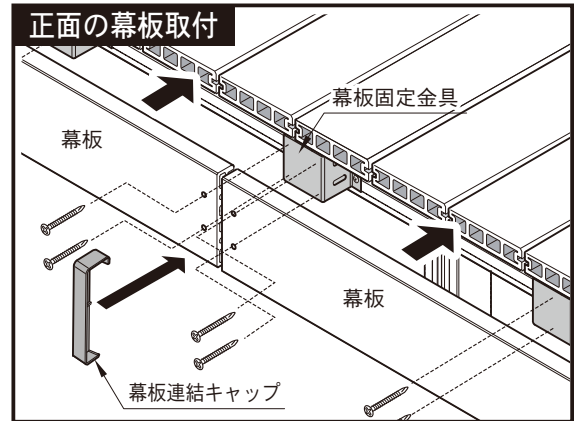
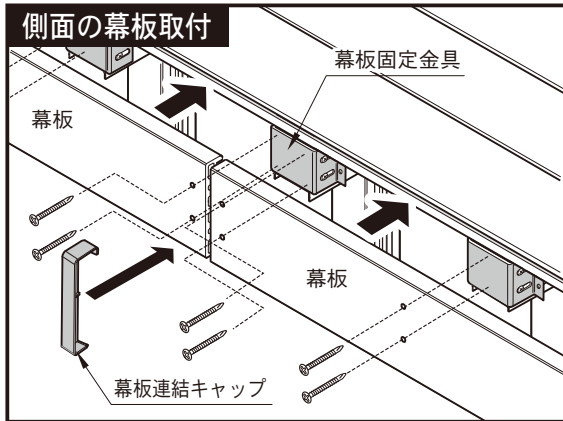
P15 参照



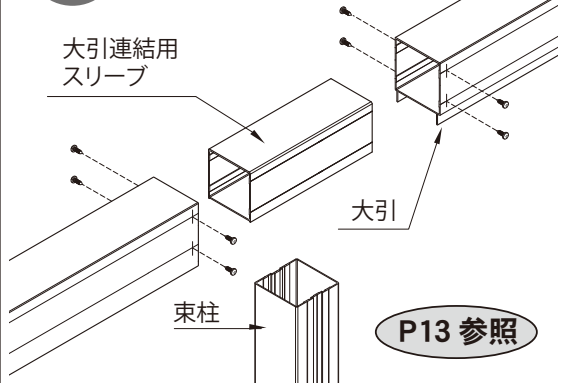
幕板は必ず幕板固定金具の上でつないでください。

P20 参照

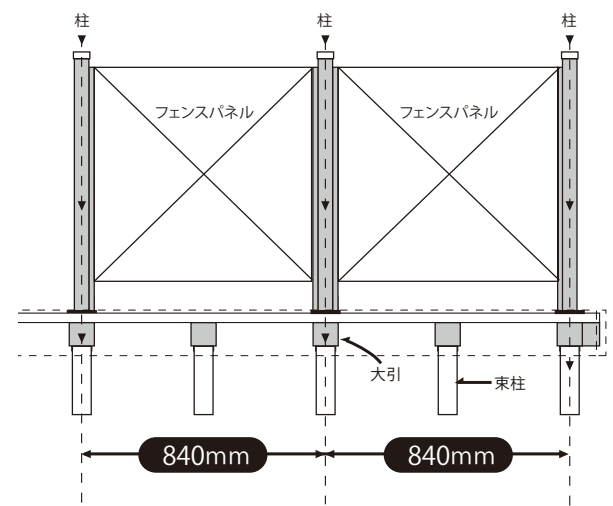
幕板を固定するねじが連結箇所追加で2本必要になります。
別売「幕板固定ねじ」をご利用ください。



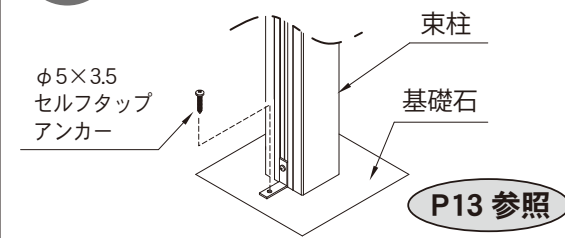
大引は必ず束柱の上でつないでください。



フェンスを取付ける場合は必ず大引間隔を840mmにしてください。



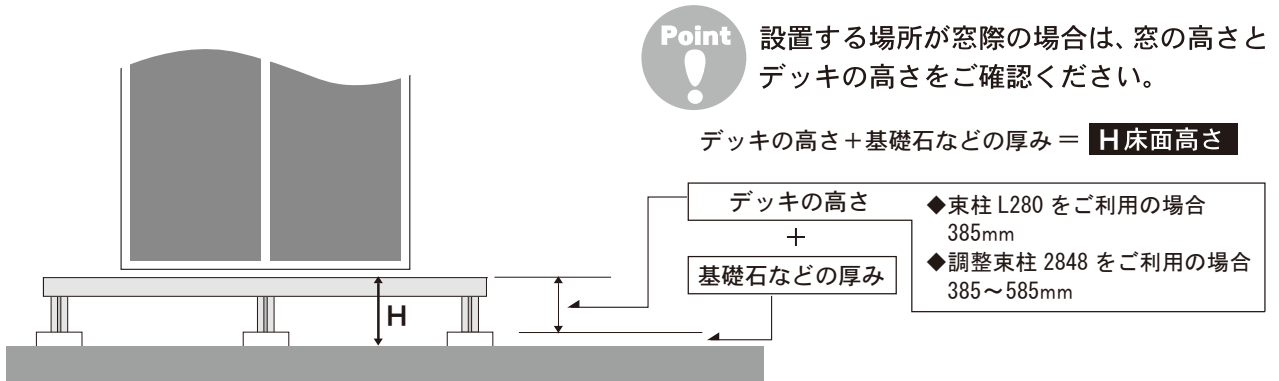
束柱は必ず基礎に固定してください。



P23 参照

施工開始 デッキの施工

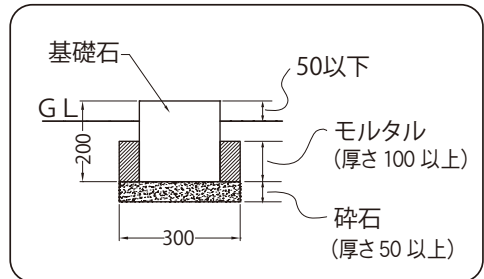
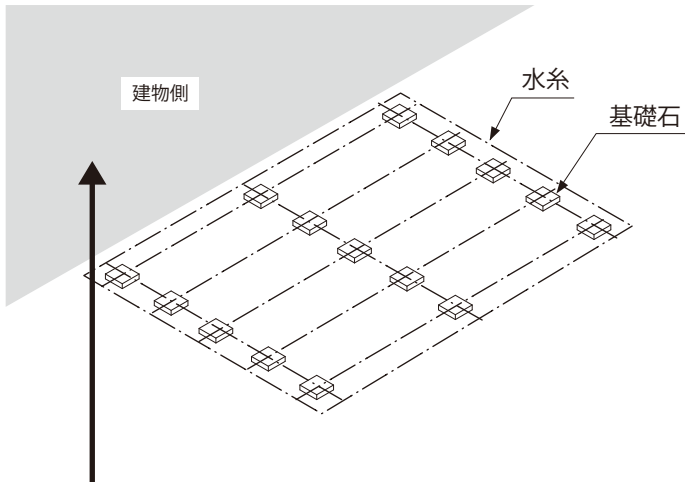
最初に H 寸法（床面高さ）を決定してください。



1 束柱・大引の施工

【1】基礎の施工

※基礎石をモルタルで固める施工をお奨めいたします。
束柱の位置を割り出し、前面と両側面の水糸に寸法出しをし基礎石の位置を決定してください。

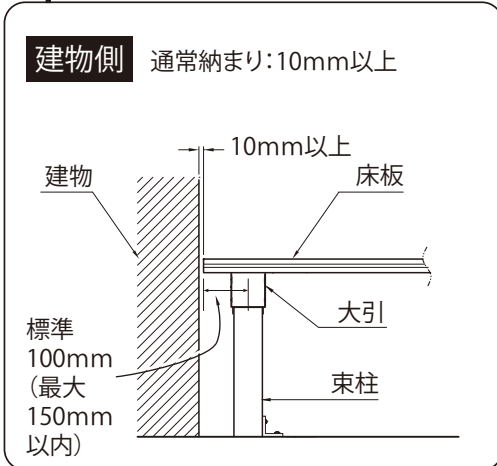


①指定位置に穴を掘り、碎石を敷いて突き固めてください。

Point この作業が十分でない、基礎のひずみが発生する場合があります。

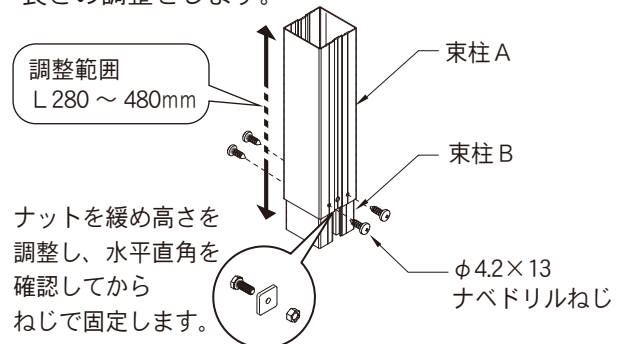
②基礎石を設置し、レベル（水平）を出してください。
③基礎石のまわりをモルタルで固めてください。


Point モルタルで基礎を固めないと、基礎の浮き沈みが発生する場合があります。



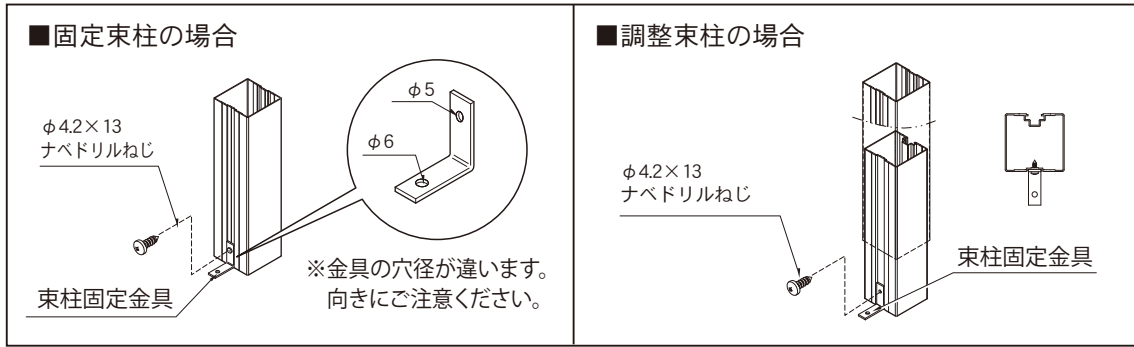
【2】束柱の加工

①調整束柱 L2848 をご利用の場合は、デッキ高さに合わせて長さの調整をします。



②束柱に束柱固定金具を取付けます。  束柱は必ずL字アングルで基礎石に固定してください。固定をしないとデッキに歪みが発生する恐れがあります。

注意

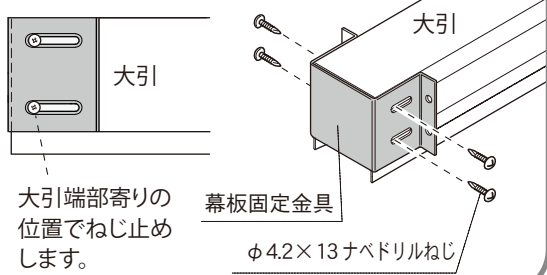


【3】大引に幕板固定金具を取付けます。(左側から床板取付けをする場合の例)

※右側から床板を取付ける場合は幕板固定金具の取付方法を左右逆にしてください。

①全ての大引の左端部に幕板固定金具を取付けます。

左側面



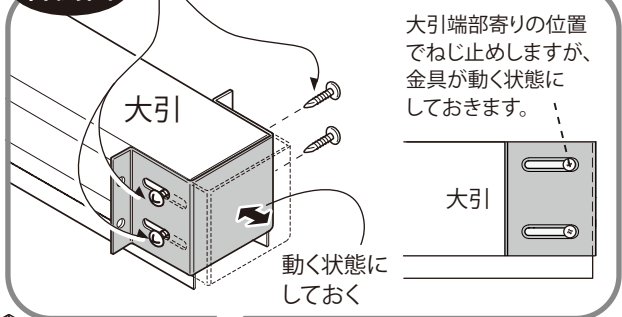
②全ての大引の右端部に幕板固定金具を取付けます。

Point

大引右端部 の幕板固定金具はねじを

緩めた 状態にしておきます。床板取付後に位置調整をしてから本締めをします。

右側面



建物側

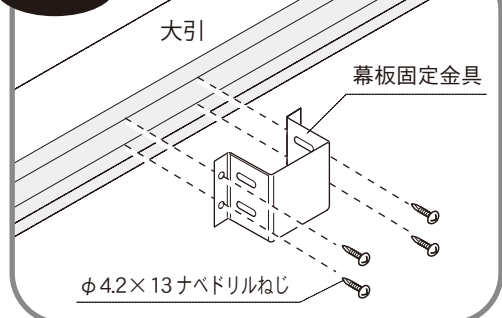
床板取付左からの場合

大引

右側面

③一番手前の大引に幕板固定金具を取付けます。
※取付位置 P6 ~ 7 参照

正面



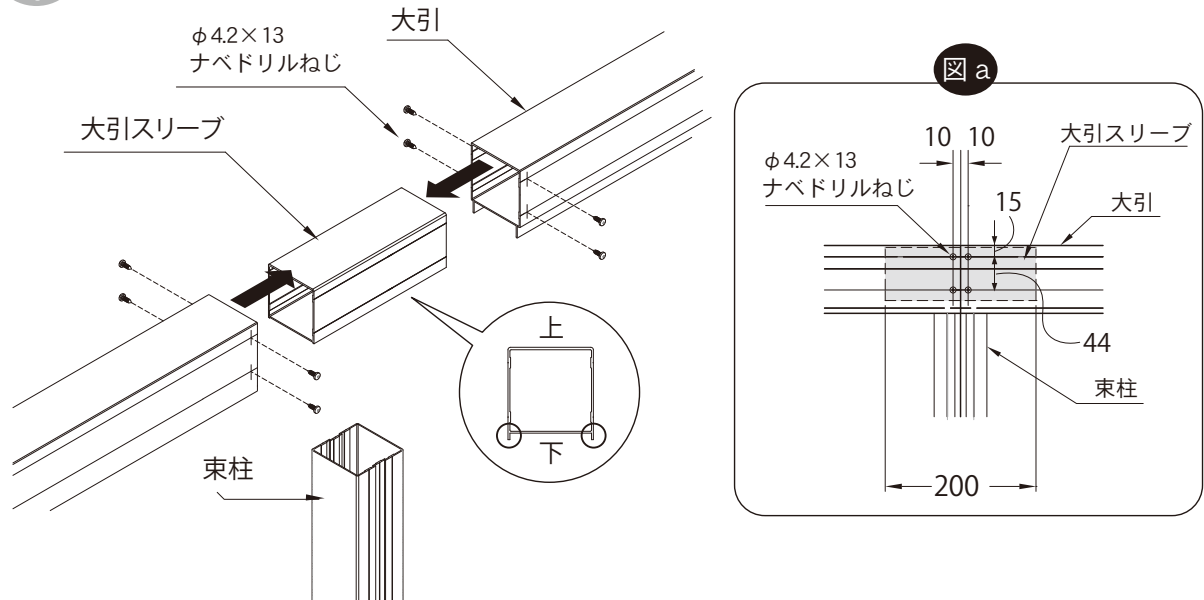
※大引を連結する場合は、幕板固定金具を取り付ける前に連結をしてください。(P12参照)

■大引を連結する場合

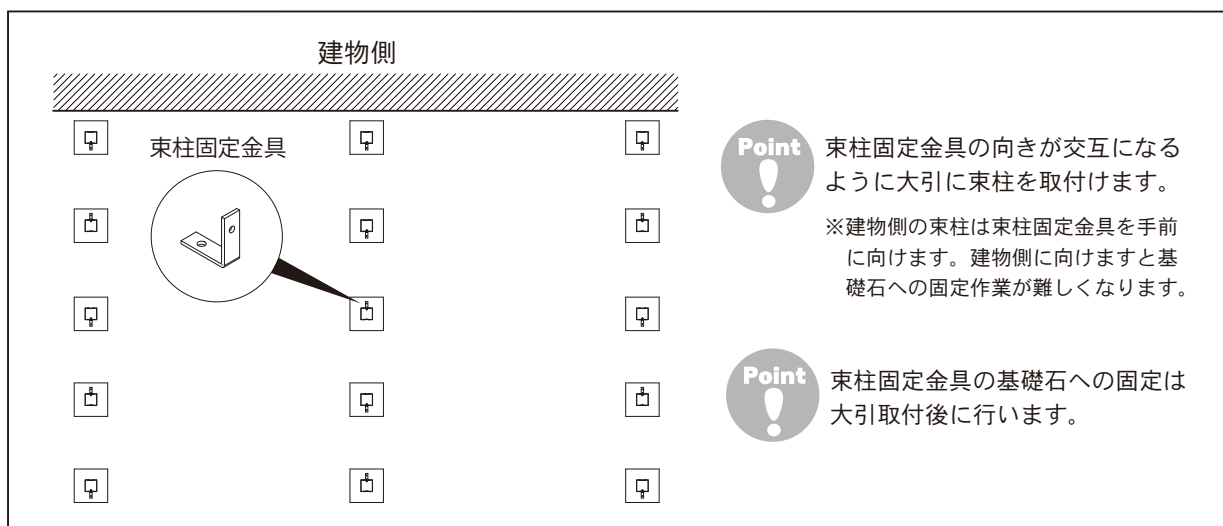
■大引の連結

大引連結スリーブを大引に挿入してねじで固定してください。

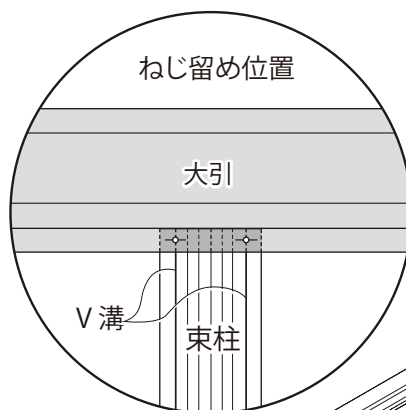
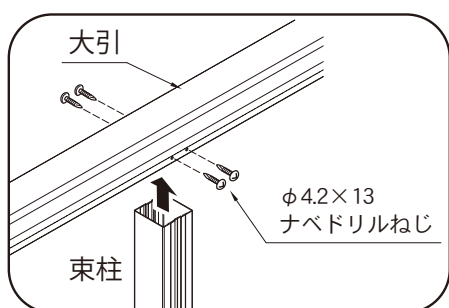
Point 大引の連結部は、束柱の中央上部で突き合わせて固定してください。(図 a 参照)
大引連結スリーブの上下を確認してから組み付けてください。



【4】束柱の取付け

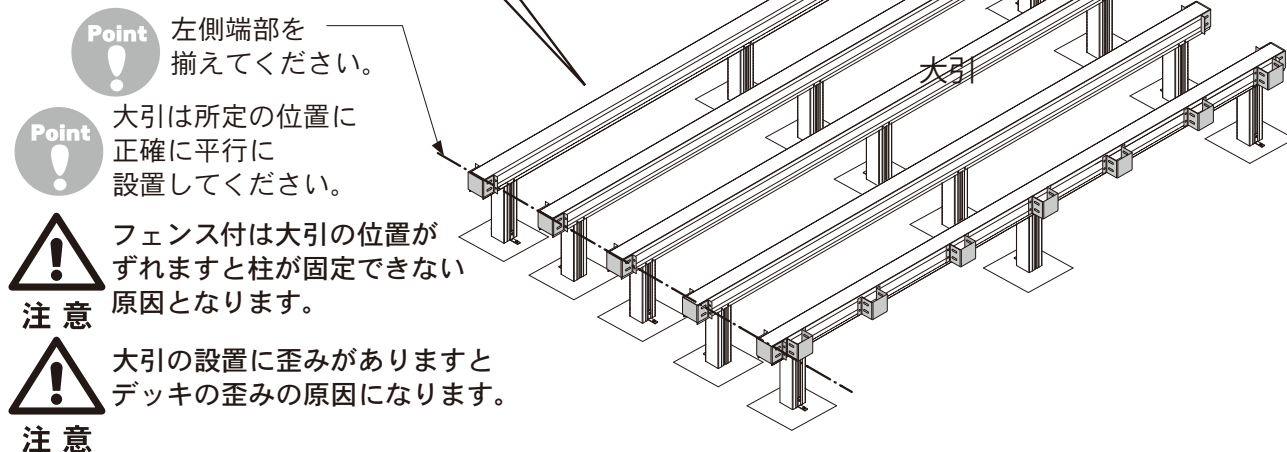


①それぞれの大引に束柱を取付けます。



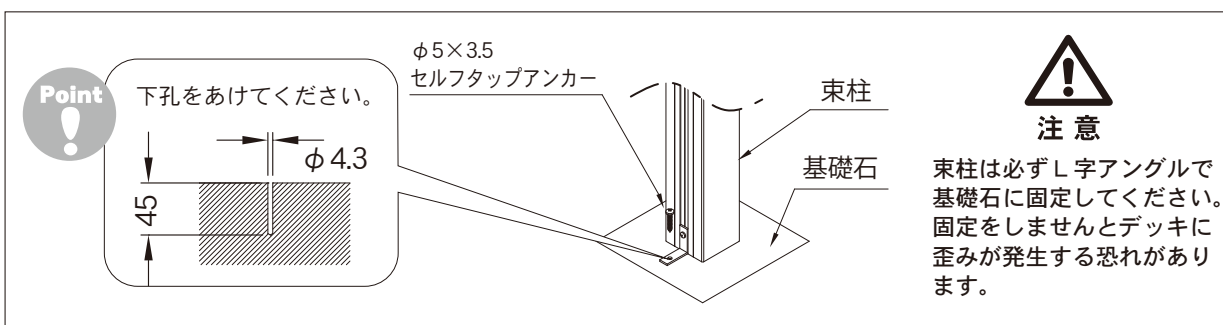
Point 束柱のV溝に合わせてねじ止めねじ位置を確認し、大引にφ5の下穴を開けてねじ止めをします。

②束柱の取付けが終わったら、基礎石の上に配置します。



【5】束柱の固定

土台にアンカーを取付ける際は、付属のアンカービスをご利用いただくか、もしくは土台の素材に応じて適宜なビスを別途ご用意ください。

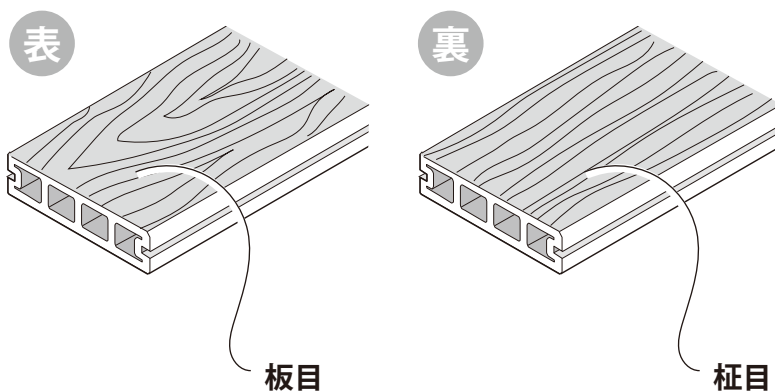


床板の色（カラー）によってご使用方法・メンテナンス方法が異なります。施工前に必ずご確認ください。

【JJ-WOOD II エクセレント】

ウォルナット (WN)

チーク (TK)



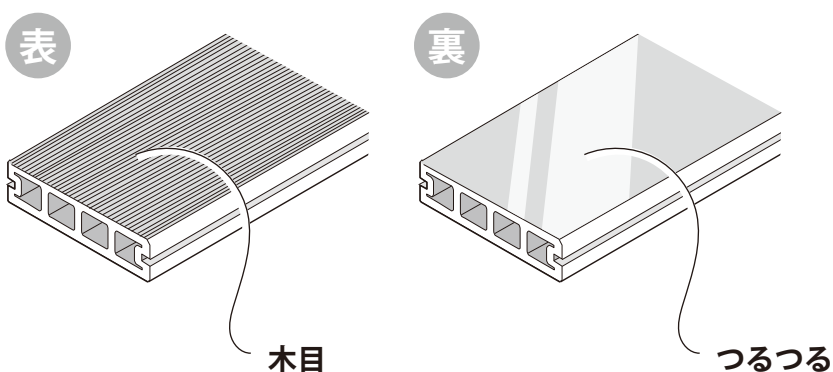
Point

床板はリバーシブルです。表裏で模様が異なります。お好みの面をお選びください。
※ウォルナット・チークは製品仕様上、サンディング（やすりをかけて滑らかにする作業）を行う事が出来ません。詳しいメンテナンス方法はP28にてご確認ください。

【JJ-WOOD II】

ダークブラウン (DB)

モカ (MC)

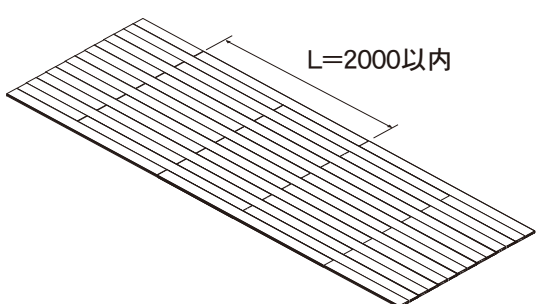


Point

床板には表裏があります。裏面は使用できません。
※サンディングをしていないつるつるの面が裏面です。

■床板を縦連結する場合は下記 3 点を必ず実施してください。

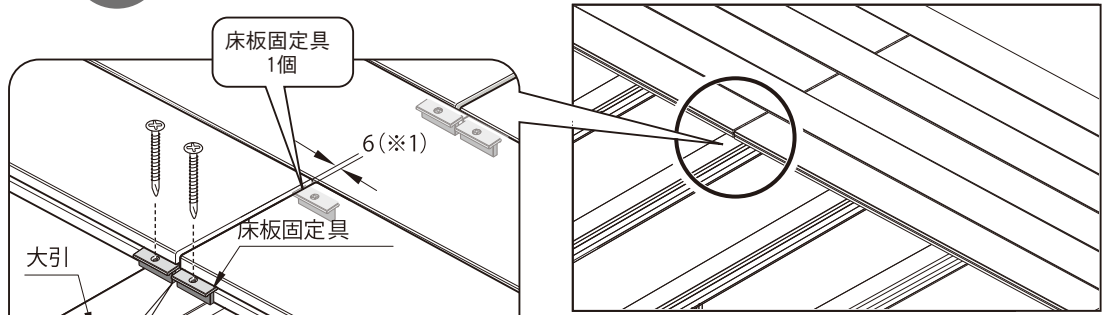
1 **重要** 床板を連結する場合は千鳥貼りとし、必ず目地をとってください。



L=2000以内

Point L=2000 以内の床板を使用し必ず目地をとってください。それより長い床板を連結すると、反り・変形の原因になります。

2 **重要** 床板の連結は必ず大引の上でおこないます。



床板固定具 1個

6(※1)

床板固定具

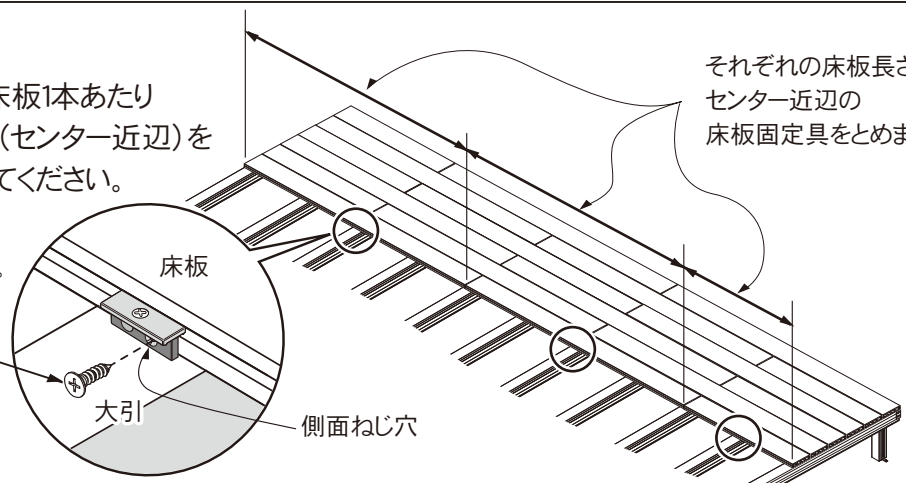
大引

床板固定具を 2 個使い固定します。
※大引から固定具が出っ張ります。

注意 (※1) 人工木の特性上、寒暖で伸び縮みが発生します。
目安 長さ 2000mm で約 6mm
真夏：約 6mm 程度の伸び
真冬：約 6mm 程度の縮み
必要に応じて施工時に目地幅を調整してください。

床板連結部の目地は 6mm 以上
連結部の床板小口は軽く (1mm 程度) 面取りをしてください。

3 動き止めのため、床板 1 本あたり 1 か所の床板止具 (センター近辺) を床板にねじ止めしてください。



それぞれの床板長さのセンター近辺の床板固定具をとめます。

下穴φ3.0をあけてください。
φ4.0×16
サラタツピングねじ

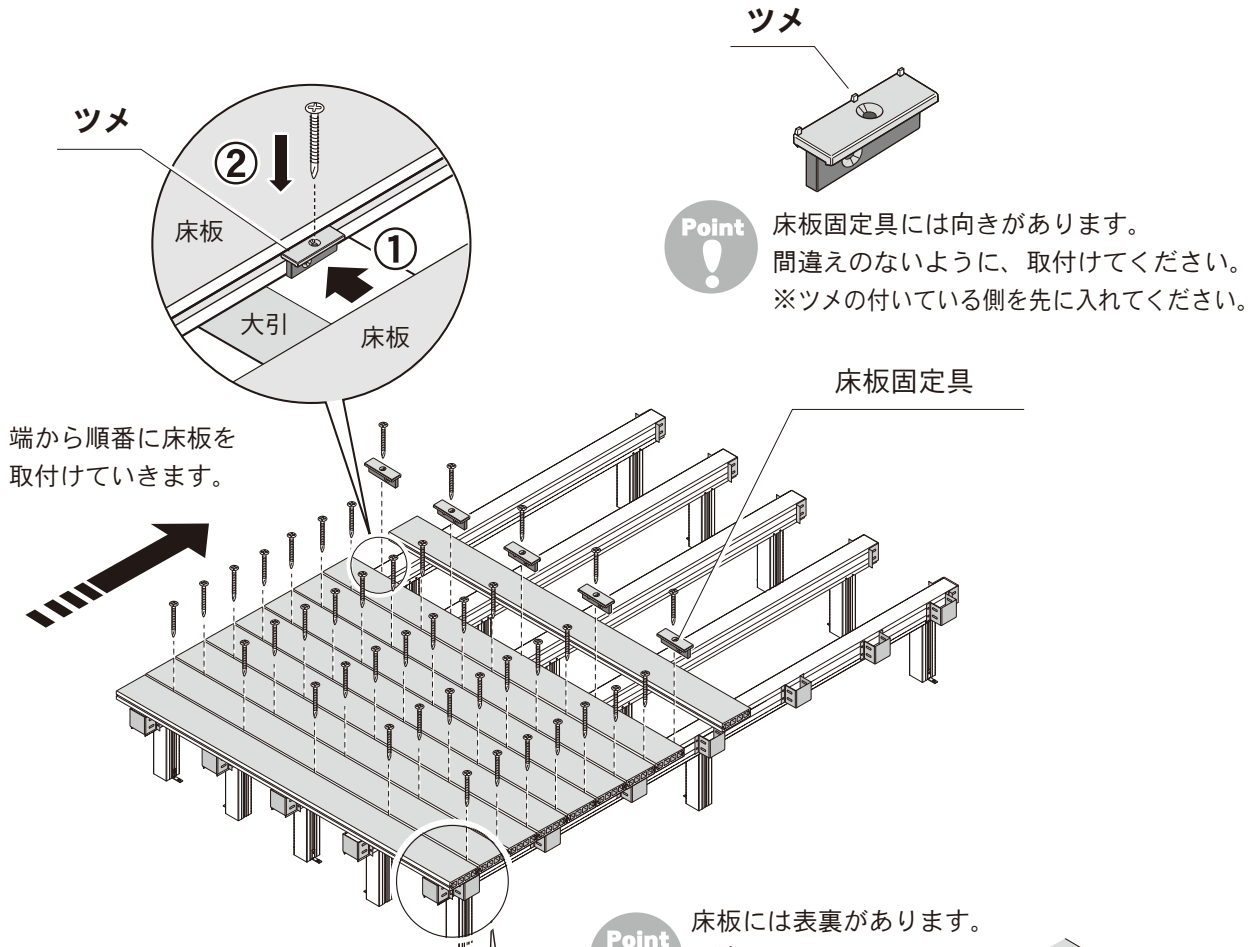
※別途ご用意ください。

床板

大引

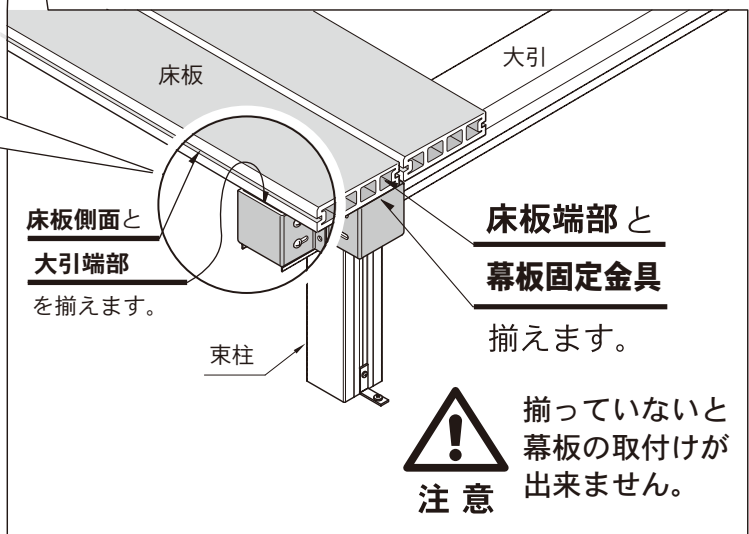
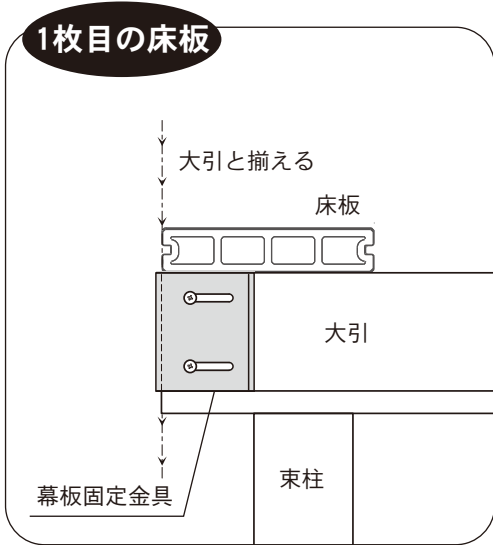
側面ねじ穴

【1】床板の取付け



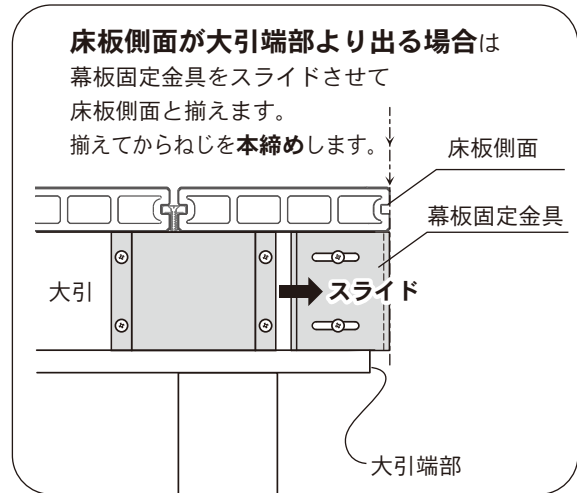
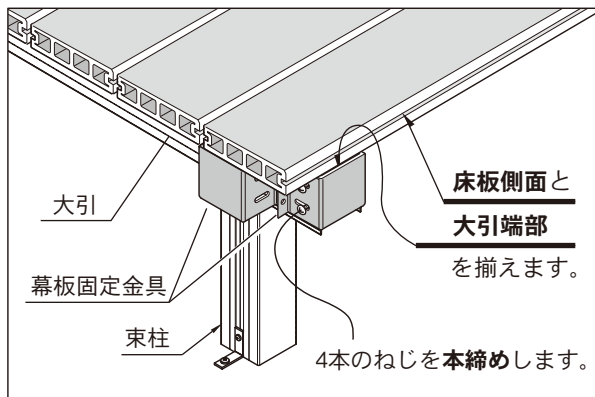
Point 床板固定具には向きがあります。間違えないように、取付けてください。
※ツメの付いている側を先に入れてください。

Point 床板には表裏があります。間違えないように、取付けてください。
※サンダーがけをしていないつるつるの面が裏側です。



【2】最終床板の取付け

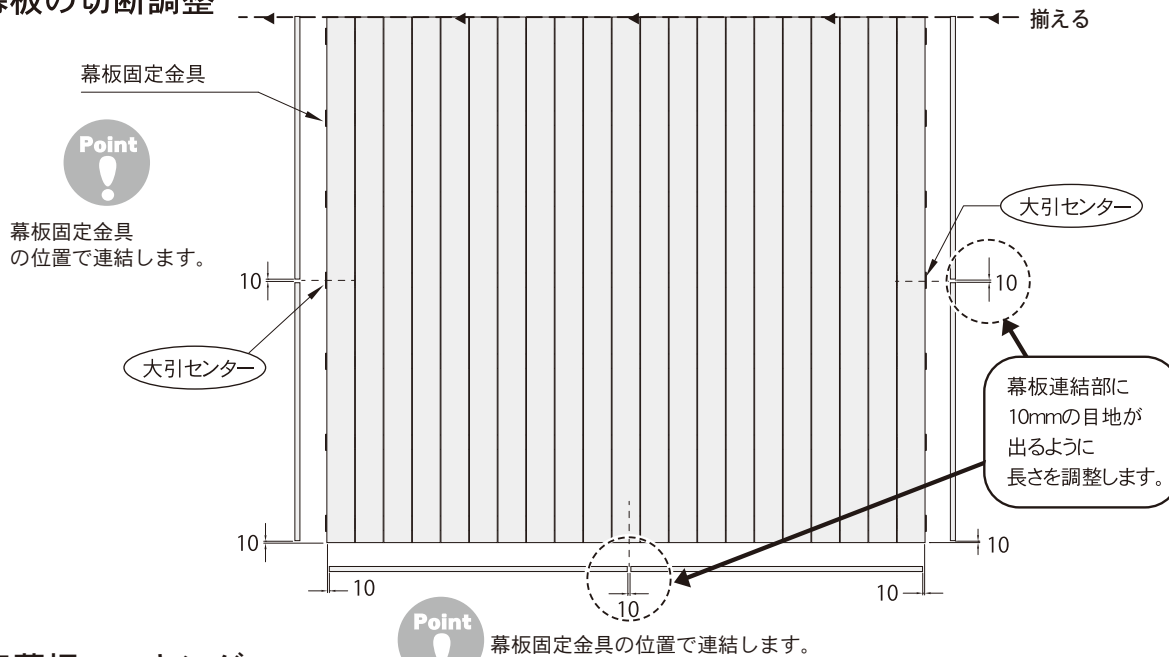
最終床板の側面を大引端部と揃えます。



3 幕板の施工

【1】幕板の加工

■幕板の切断調整



■幕板マーキング



必ず「幕板下穴L字治具」をご利用ください。穴の位置を間違えますと幕板を固定できなくなりますのでご注意ください。マーキングをして下穴加工をする際には、必ず幕板を **おろして穴加工** をしてください。

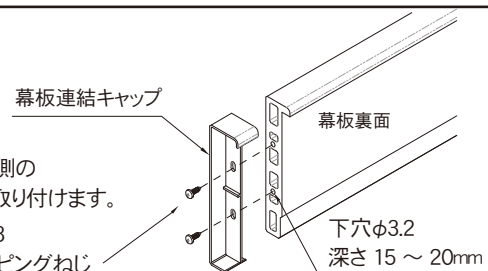


幕板の連結がある場合は、連結キャップを取付けます。



キャップ穴にあわせ下穴加工を必ずおこなってください。
φ3.2 深さ 5 ~ 20mm

※連結左側の幕板に取り付けます。
φ3.5×13 ナベタッピングねじ (手締めしてください。)

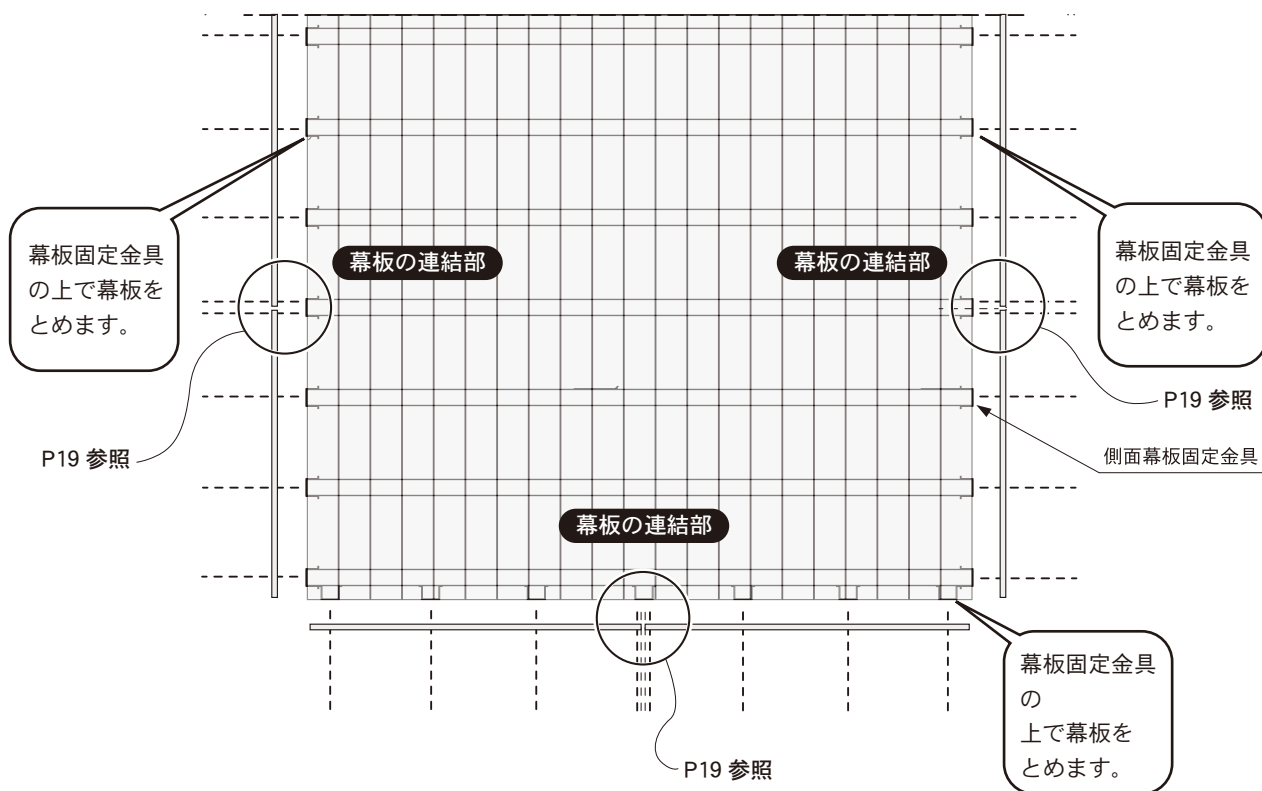


幕板固定位置を確認して、

それぞれの箇所に幕板下穴L字治具を使いマーキングをします。

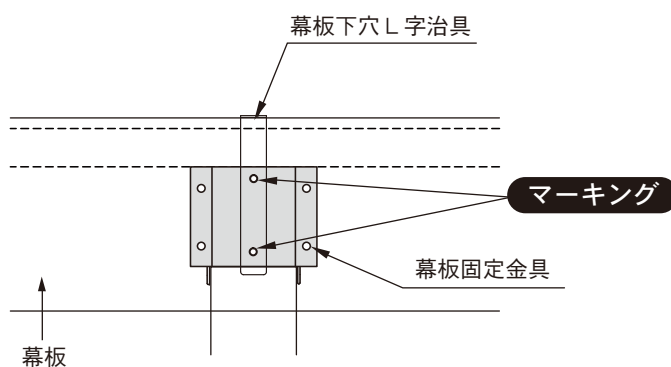


必ず幕板固定金具の上で幕板をとめます。
金具に固定しないと幕板落下の原因となり大変危険です。



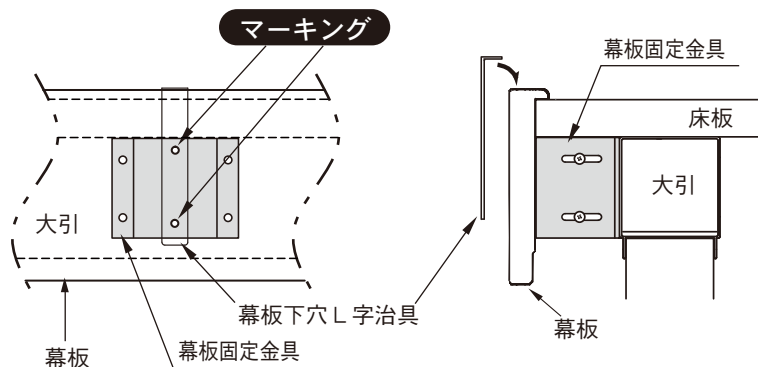
■側面幕板の固定部

幕板固定金具の上で幕板をとめます。



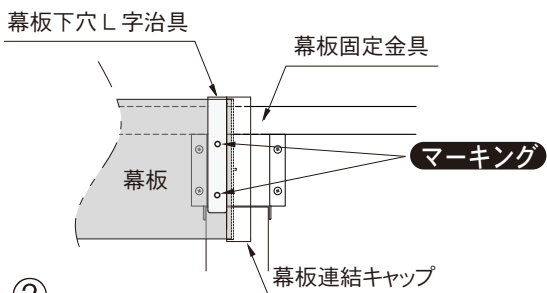
■正面幕板の固定部

幕板固定金具の上で幕板をとめます。

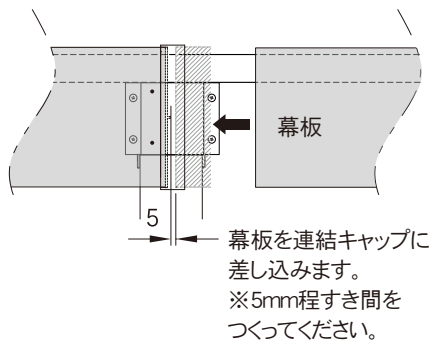


■側面幕板連結の場合

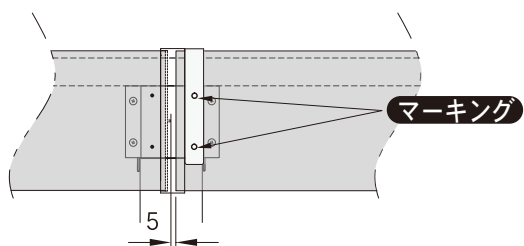
①



②

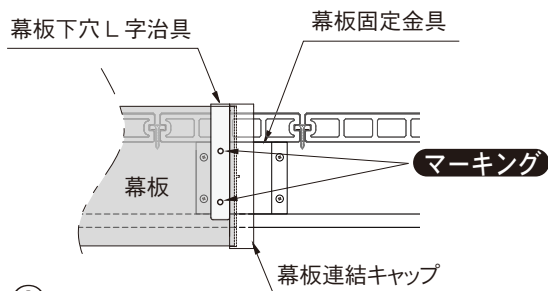


③

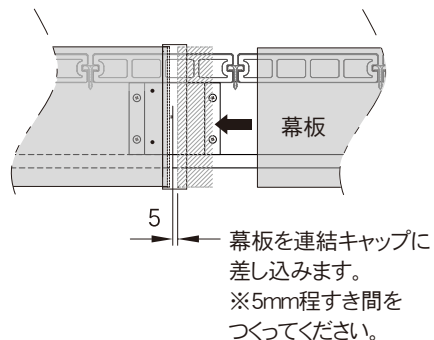


■正面幕板連結の場合

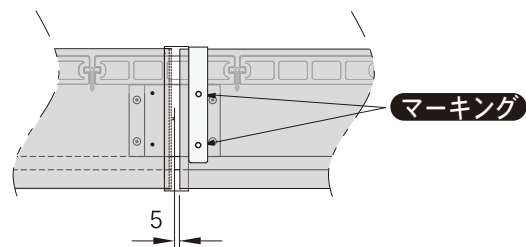
①



②



③



マーキングが済んだら下穴加工をして取付けます。
穴開け、皿取りは必ずおこなってください。

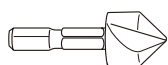
■幕板の下穴加工

②下穴加工をする際には、幕板をおろして穴加工をしてください。

※下穴は幕板にあけます。

大引や側面幕板固定金具にはあけないでください。

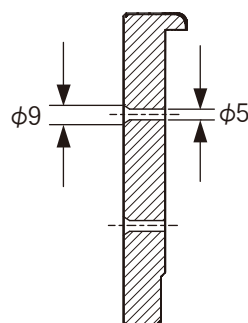
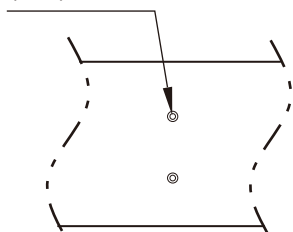
皿取り加工



皿取り加工は
面取りカッターを
ご使用ください。

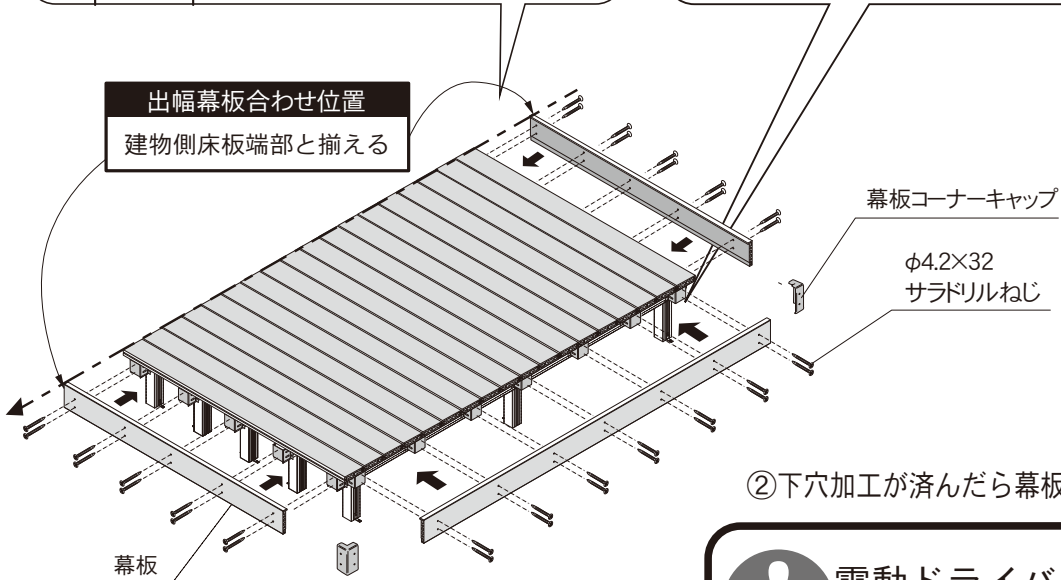
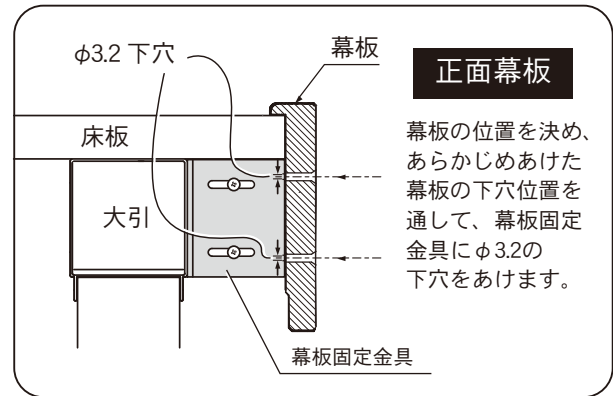
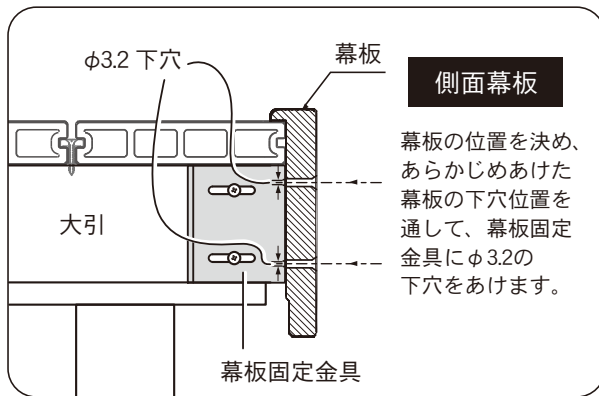
※別途ご用意ください。

φ5-φ9 皿取り



【2】幕板の取付け

①大引と幕板固定金具に下穴加工をします。

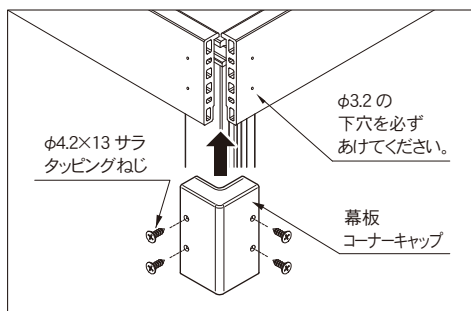


②下穴加工が済んだら幕板を取付けます。



電動ドライバーの力は
弱めでゆっくりと
締めてください。

【3】幕板コーナーキャップの取付け



完成です

フェンスの施工

フェンス部材表

■柱 08 (ラティス、ボーダー共通)

呼称	略図	員数
柱		1
治具		1
Φ5.5×60 六角ドリルねじ		4

■ラティスセット

呼称	略図	員数
上枠		1
下枠		1
レール		2
ラティス		1
Φ4.2×13ナベドリルねじ		16 (予備 2)

■ボーダーフェンス用

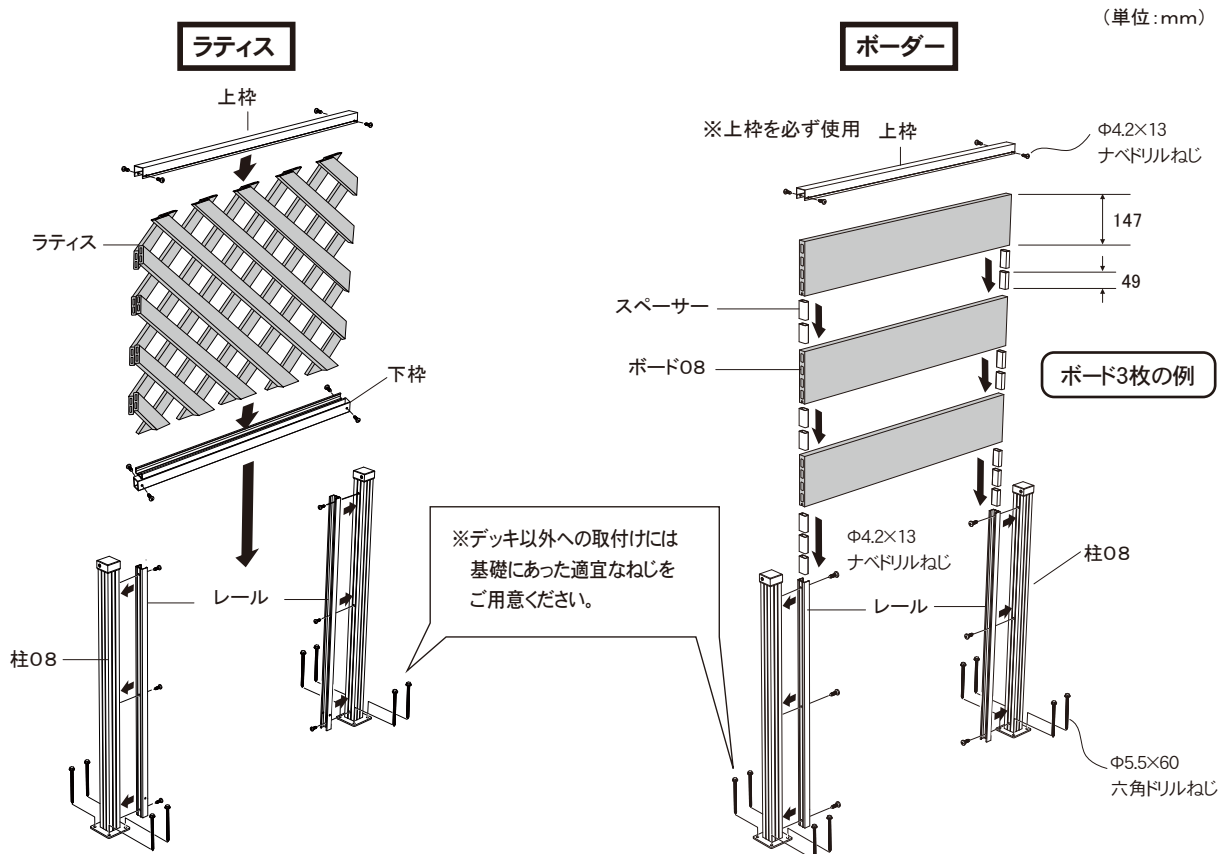
【1】ボーダーフェンスセット 0808

呼称	略図	員数
ボード		3
スペーサー		14
上枠		1
レール		2
Φ4.2×13ナベドリルねじ		11 (予備 1)

【2】ボード 08

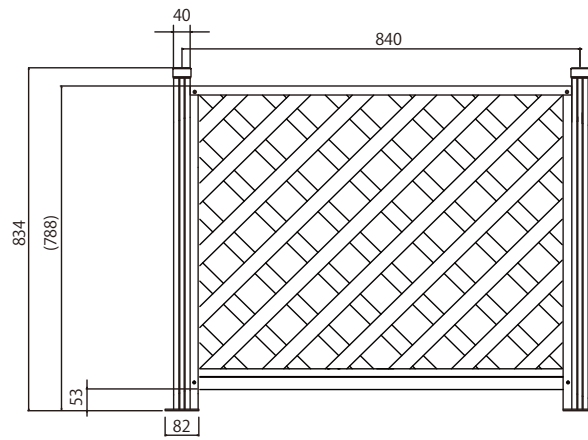
呼称	略図	員数
ボード		1

組立図



寸法図

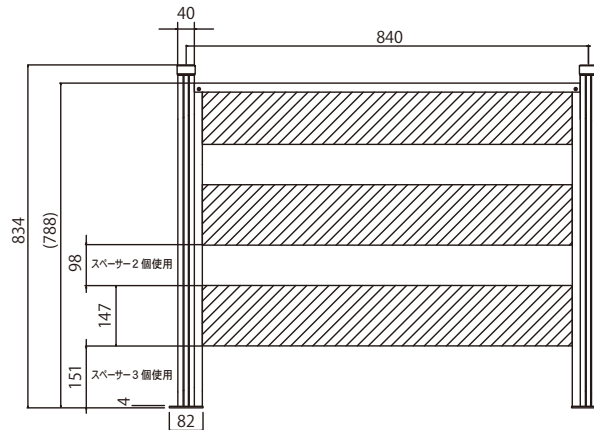
ラティス



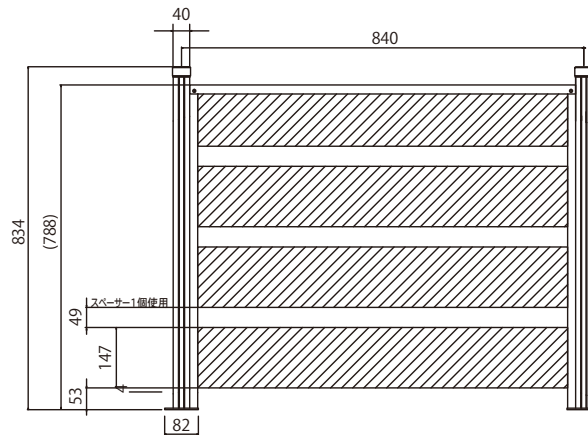
ボード

※最上部のボード位置は固定位置。
その他のボード位置はスペーサー使用数により移動可能です。

■ボード 3 枚



■ボード 4 枚

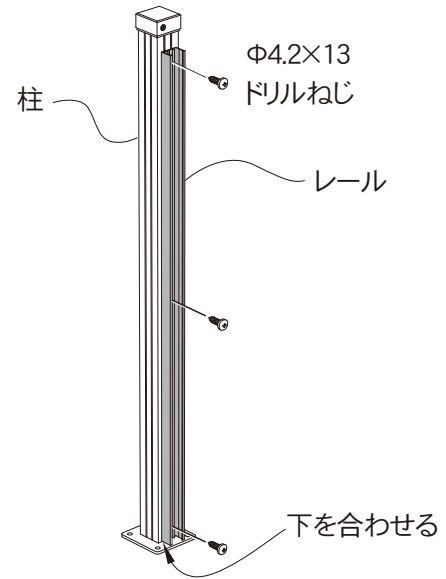
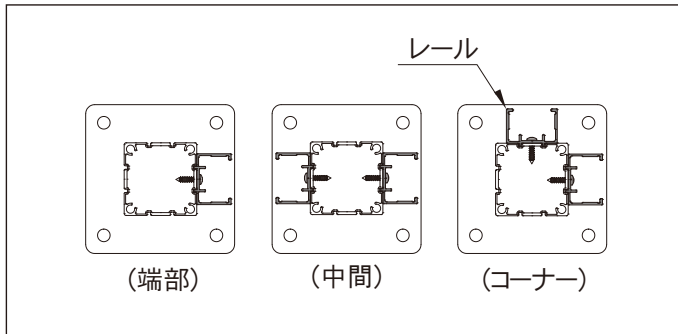


1

柱の施工

【1】レールの取付け

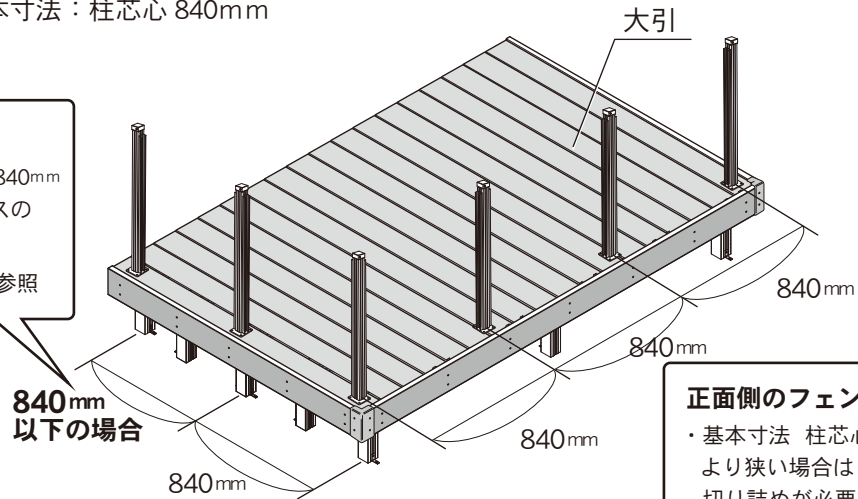
柱にレールを取付けます。
フェンスを取付ける面にレールを取付けます。



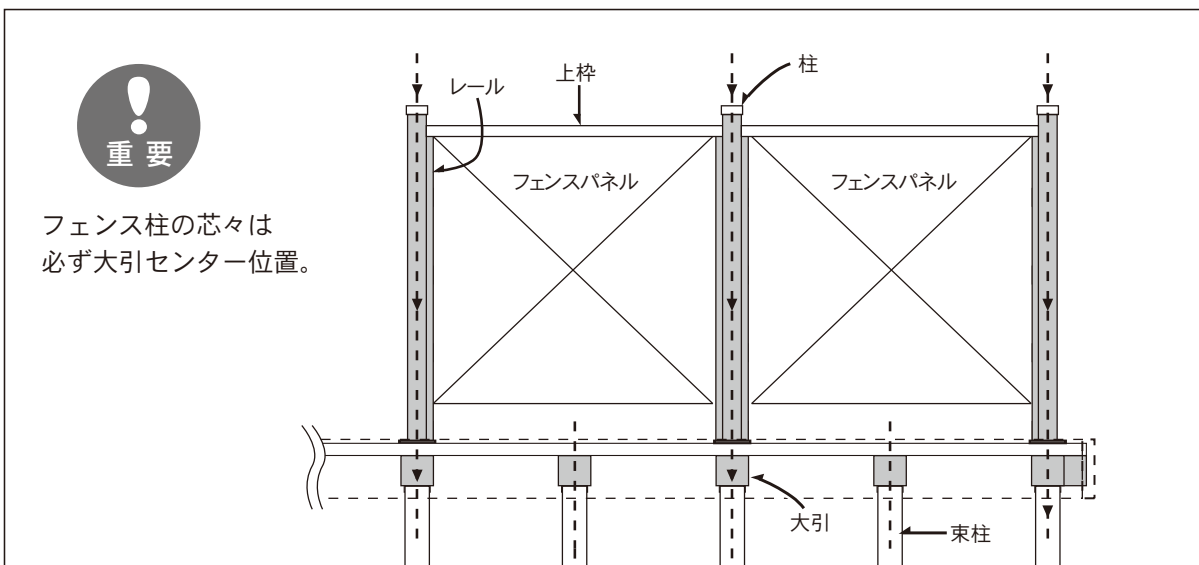
【2】柱の位置決め

大引の上に柱を配置します。
※レールを取付けた柱の向きに注意してください。
※柱間の基本寸法：柱芯心 840mm

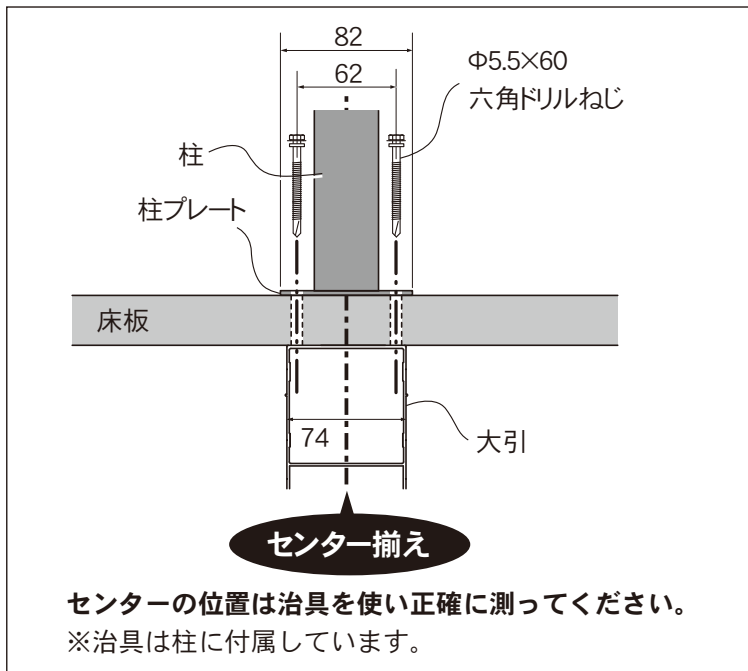
出幅側のフェンス
大引の芯心が基本寸法 840mm
より狭い場合はフェンスの
切り詰めが必要です。
※切り詰め方法は P25 参照



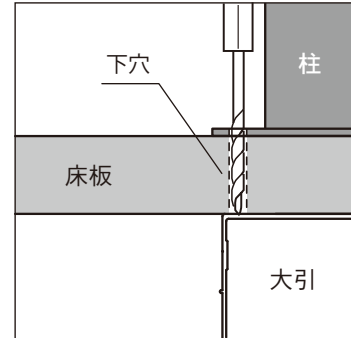
正面側のフェンス
・基本寸法 柱芯心 840mm
より狭い場合は
切り詰めが必要です。



【3】柱の取付け

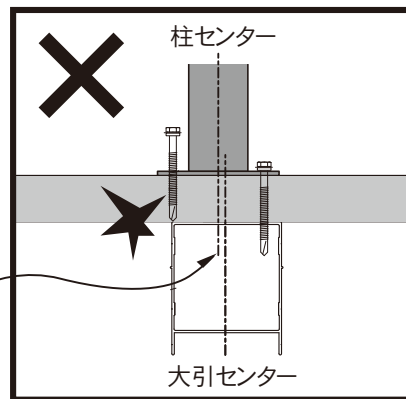


Φ6.0mmのドリル刃で下穴をあけてからとめてください。
下穴は床板部のみにあけてください。



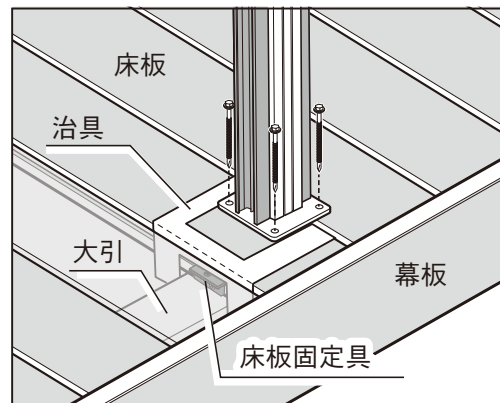
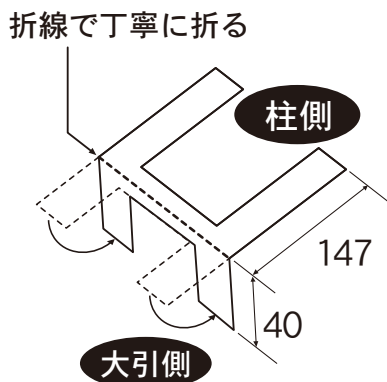
センターから1mmずれると取付けができません。

ずれている



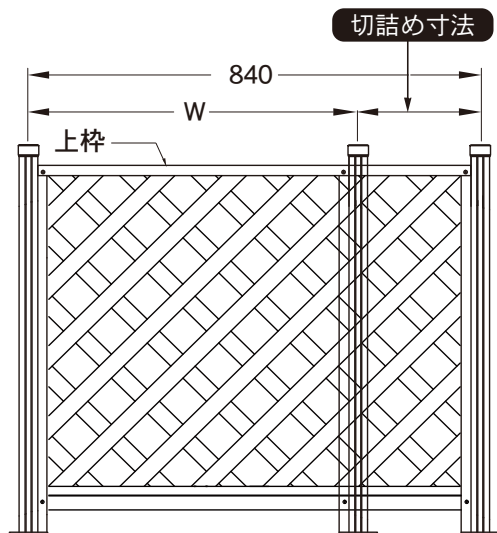
■治具の使い方 ※治具は大引と柱のセンターを揃えるものです。

床板目地から治具を差し込み大引に合わせます。



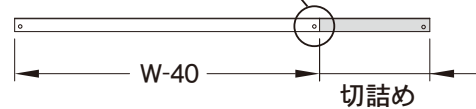
ラティス

フェンス幅を切り詰める場合は上枠、下枠、ラティスを切り詰めます。



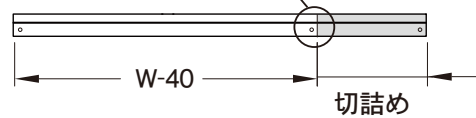
■上枠

※穴をあけ直してください。



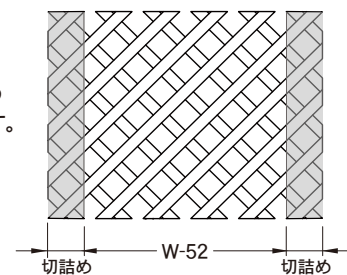
■下枠

※穴をあけ直してください。



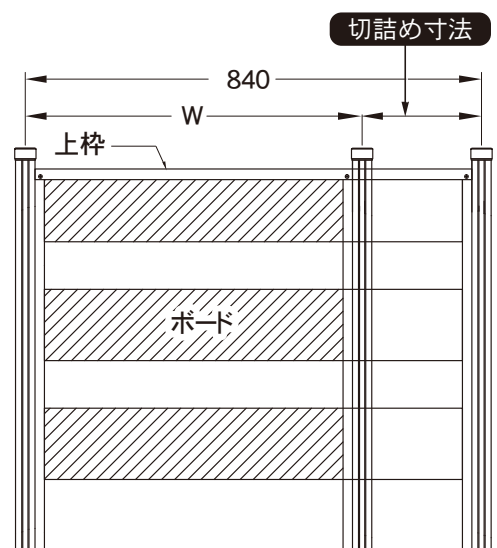
■ラティス

左右で半分ずつ切り詰めます。



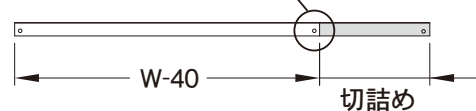
ボーダー

フェンス幅を切り詰める場合は上枠とボードを切り詰めます。

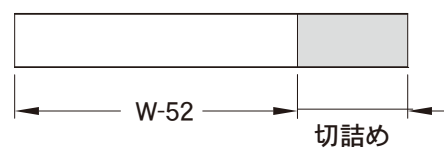


■上枠

※穴をあけ直してください。

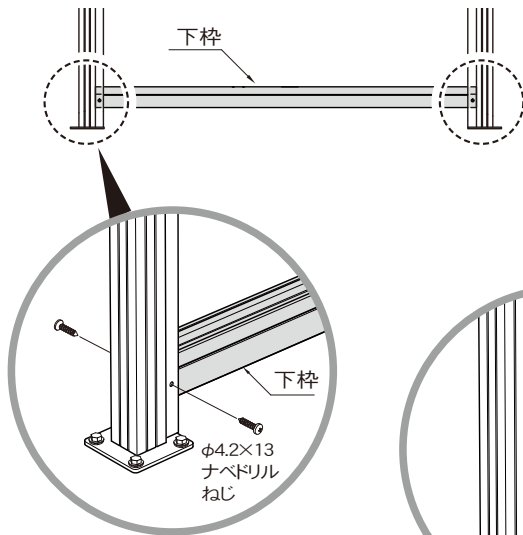


■ボード

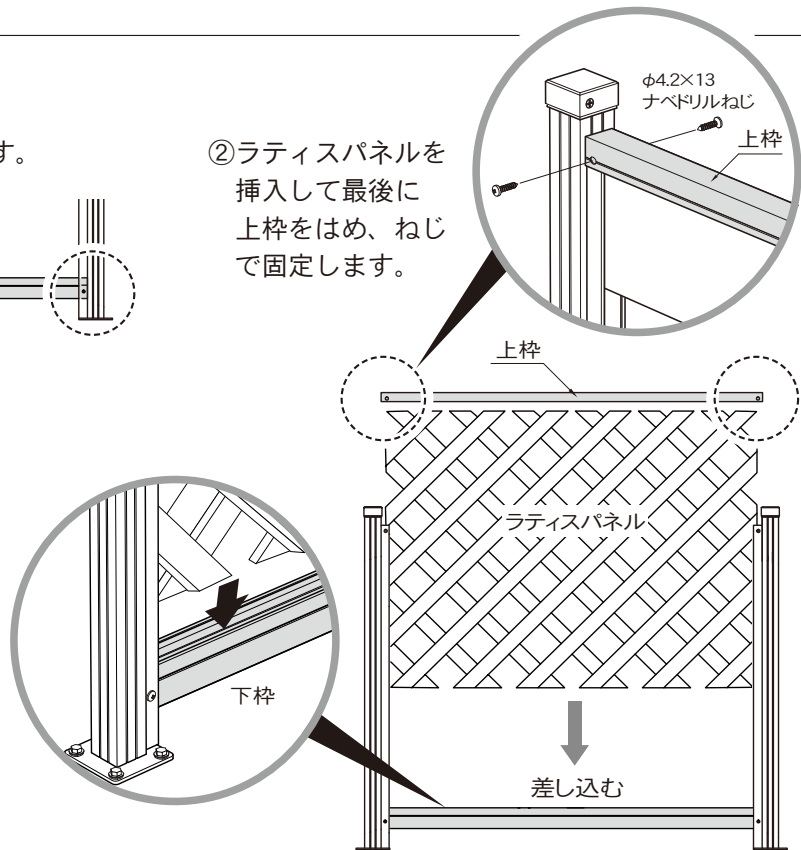


ラティス

① レールに下枠を取付けます。

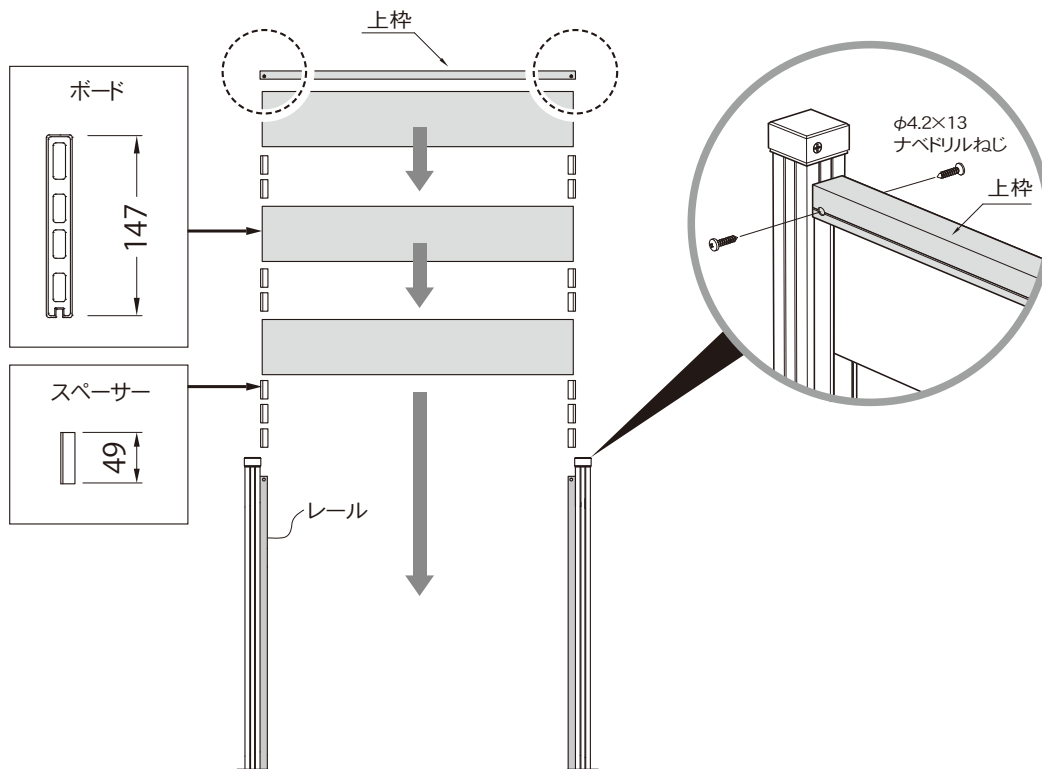


② ラティスパネルを挿入して最後に上枠をはめ、ねじで固定します。



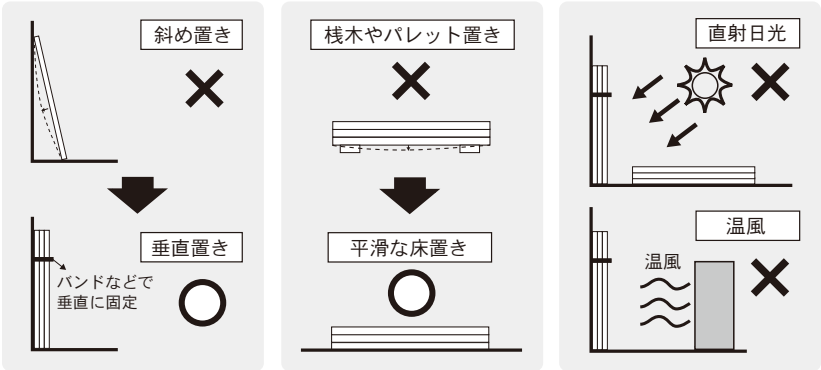
ボーダー

レールにスペーサーとボードを落とし込みます。最後に上枠をはめ、ねじで固定します。



■木粉樹脂デッキ材の特性と使用上のご注意

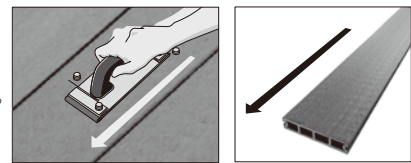
必ずお守りください。

<p>加工・ 塗装について</p>	<p>木粉樹脂デッキ材は通常加工(切断、穴あけ、面取りなど)であれば木材同様の工具が使用可能です。 長さ方向へ切断しますと、変形する場合がございますので、そのような使用はお避けください。 塗装はお避けください。</p>
<p>温度特性に ついて</p>	<p>木粉樹脂デッキ材は原料に使用している樹脂の特性上、周囲の温度差による影響で若干の伸縮や反りが起きる場合があります。</p>
<p>保管方法に ついて</p>	<p>木粉樹脂デッキ材は木と樹脂の特性を合わせ持っています。商品の性質上、熱による伸縮や軟化がありますので、取り扱いにおきましては、下記のご徹底をお願いします。保管・運搬を誤りますと使用に堪えない変形や破損が生じる恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 必ず陽のあたらない平滑な面にねかせるか直角に立て掛けてください。 栈木等にまたがらせての保管はお止めください。 ● 斜めに立てかけるのはお止めください。 ● 直接、太陽光のあたる場所での保管はお止めください。 ● 商品の上に、違う物を乗せるのはお止めください。 ● 現場での一時保管の場合、シートをかぶせるのはお止めください。 ● 内部が高温になります。 

<p>その他の 注意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中の日差しが強い時は表面が熱くなる事がありますので、歩行の際は必ず履物を履いてください。特に小さなお子様が使用されている時は十分注意をしてください。 ・ 製品の特性上、隙間(目地)をあけての施工をお願いしておりますので隙間に指等を挟まないようご注意ください。 ・ 本製品表面に灯油、ガソリン、有機溶剤が付着した場合はすぐに拭きとってください。変形、変色の原因となります。 ・ 本製品の上に空き缶や鉄製の物等をおいて、長時間放置しないでください。鉄の錆等で見みができる原因となります。 ・ 重量物を置かないでください。変形の原因となります。 ・ 本製品は製造時に発生した粉や繊維状のものが表面に残っている場合があります。天然木のささくれやトゲなどとは異なりますので、刺さったりすることはありません。
-----------------------------	--

■お手入れ方法

<p>汚れについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れは使用頻度に大きく影響されます。特に工業地、海岸地域、排気ガスの多い場所ではお手入れの回数を増やしてください。 ・汚れが付着した場合は、頑固な汚れになる前に清掃を行ってください。
<p>お手入れの際の注意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひどい汚れを落とす場合でも、強酸、強アルカリ、シンナーやベンジンなどの有機溶剤、石油類は使用しないでください。 ・洗剤はきれいに洗い流してください。洗剤が残ると変色の原因となります。 ・高圧洗浄機での洗浄も可能ですが、水圧によっては製品の木目加工に影響を及ぼしたり、製品表面に痕が残る場合がありますので影響の無い箇所(製品の端等)で状況を確認してからご使用ください。
<p>お手入れ方法</p>	<p>《 通常のお手入れ 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本製品についてごみや埃は、ほうき等で取り除いてください。 汚れている部分は布かスポンジ・デッキブラシ等を使って、水洗いしてください。 <p>《 汚れがひどい場合 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中性洗剤を所定の割合まで希釈し、布巾などで部材の長手方向に拭き、水で洗剤をきれいに洗い流してください。 <p>《 定期的なお手入れ 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1~2回程度の頻度で、柔らかい布やスポンジ等で水拭きをした後に乾拭きしてください。 <p>《 し み 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用環境によって雨・雪等により、製品表面に部分的なしみが残ることがあります。 <p>◆この現象の対処法</p> <ol style="list-style-type: none"> ①通常のお手入れ方法で、本製品の表面のごみや埃、汚れを除去します。 ②散水ホース等を用いて、本製品全体に表面が完全に濡れるように十分散水します。 ③散水終了後に自然乾燥をしますとしみを目立たなくすることができます。 <p>※製品表面に水が部分的に残っている場合は必ず乾拭きをしてください。</p> <p>《 カ ビ 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カビの除去は市販のカビ取り剤をご利用ください。その際、カビ取り剤の使用方法に従い十分注意して使用してください。 <p>《 傷・こげ痕 》</p> <p>※ウォルナット・チークは、サンディングすると加工表面が禿げてしまいますので以下のお手入れはしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品表面についた傷や焦げ痕の除去方法 <ol style="list-style-type: none"> ①通常のお手入れ方法で、本製品の表面のごみや埃、汚れを除去します。 ②傷、こげ痕部分をサンドペーパー(＃100)で長手方向に擦り、傷・こげ痕を取り除きます。 ③傷・こげ痕を取り除いた後、削粉を清掃します。 <p>※初期の表面と若干異なることがありますので、お手入れ周辺を含め全体的にぼかす感じで作業を行うことがポイントです。</p>



長手方向に沿って一方方向にサンドペーパーでこすります。

■点検とメンテナンス

◆デッキの場合

デッキ下部の水はけが悪くなることで湿度が高くなり、本製品に悪影響を及ぼす可能性がありますので《定期的なお手入れ》と併せて、年に3~4回の頻度で点検・メンテナンスを行ってください。

◆点検箇所のポイント

- ・水溜りの原因をなくすための目地、隙間、間隔が確保できているか？(目地にゴミ等がつかまっていないか)
- ・下地および排水溝にゴミが溜まっていないか？※溜まっている場合は掃除をしてください。
- ・換気が悪くなるような物が置かれていないか？